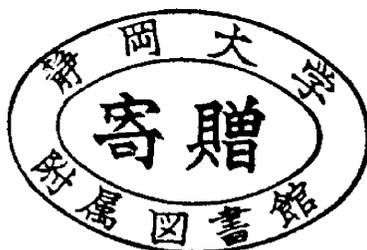


高等学校家庭科住生活学習における高齢者 を取り入れた地域教材の開発と授業研究

(課題番号 09680260)

平成九年度～平成十年度科学研究費補助金 (基盤研究(c)(2))

研究報告書



平成11年3月

静岡大学附属図書館



030850373 9

研究代表者 小川裕子

(静岡大学教育学部助教授)

はしがき

平成九、十年度の二年間にわたって、文部省科学研究費の交付を受け、「高等学校家庭科住生活学習における高齢者を取り入れた地域教材の開発と授業研究」というテーマで、各種の資料収集・整理、高等学校での授業実践研究を進めてきた。本報告では、現時点におけるその成果について公表する。なお、授業実践研究の成果は、今後学会誌等に報告する予定であるが、本報告書（第三章）では筆者の指導の下で研究をすすめた増田香織による卒業論文の成果を中心とした。

研究経費

平成九年度	600千円
平成十年度	600千円
合計	1,200千円

研究発表

(1) 学会誌等

永原朗子、入江和夫、小川裕子

「父母の家庭科観（第2報）—学習指導要領改訂前後の調査を通して—」

日本家庭科教育学会誌、第40巻第2号、平成九年八月

(2) 口頭発表 なし

(3) 出版物

1. 小川裕子

「教科教育における福祉教育のカリキュラム編成と実践」

村上尚三郎他編著『福祉教育論』北大路書房、平成十年四月

2. 小川裕子

「『家族・家庭生活』領域の指導の工夫—実習・体験学習—」

家庭科教育実践講座刊行会編『Asset、第2巻 家族と共につくる家庭生活』

平成十年十月



目 次

第1章 家庭科教育における福祉教育のカリキュラム編成と実践

- 1 事例 選択科目の授業から—静岡県立小笠高校 1
- 2 事例の考察—学習者自らのかかわりを重視 3
- 3 展開—家庭科における「高齢者、高齢者福祉」のカリキュラム編成 4
- 4 課題と展望—家庭科における「高齢者、高齢者福祉」の実践にあたって 7

第2章 「家族・家庭生活」領域の指導の工夫—実習・体験学習—

- 1 本領域の学習・指導における実習・体験学習の位置 9
- 2 先行的な授業実践にみる傾向 9
- 3 今後の「家族・家庭生活」領域における実習・体験学習への提案 10

第3章 「住生活」領域における授業実践研究

—大学生と高齢者の個人的生活空間を教材として—

- 1 授業研究計画
 - 1 授業研究計画の概要 13
 - 2 事前の学習内容 16
 - 3 事前調査結果（略）
 - 4 学習指導案の作成 19
- 2 授業の実施
 - 1 実施準備 25
 - 2 授業実践 27
- 3 授業分析と授業の評価
 - 1 授業分析の方法と視点 41
 - 2 学習内容、学習方法の分析及び評価（授業者の立場から） 43
 - 3 学習内容、学習方法の分析及び評価（学習者の立場から） 45
 - 4 仮説の検証 56

第1章 家庭科教育における福祉教育のカリキュラム編成と実践

1 事例

選択科目の授業から——静岡県立小笠高校

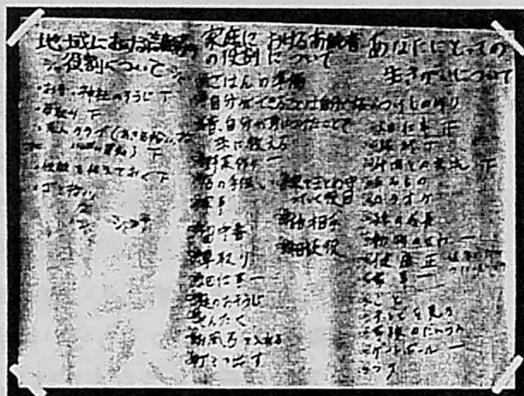
(T：授業者，C₁～C₅：学習者)

T：今から、プリントとワークシートを配ります(プリントには、学習者を対象に行った事前調査「このクラスのみなさんのいづく高齢者に対するイメージ」の結果のうち、「高齢者の生きがい」「高齢者の家庭や地域での役割」について載せている。これらは、前時までに学習者が調査し集計した「同居世帯高齢者の生活に関するアンケート」結果との比較が可能で、しかも双方の考えにギャップの認められた項目である)。

T：では、このプリントの説明をします。(以下説明略)

T：プリントのみなさんの高齢者に対してイメージしている結果と、実際に自分たちで調査・集計した高齢者を対象とした調査結果をくらべて、何か気づきませんか。(3班のまとめた、「高齢者(自身の考える)の生きがい、役割」(写真1)を黒板に貼る)(考える時間をとる)

T：出ないようなので、先生が見て気づいたことを言います。高齢者の生きがいのところを見て下さい。高齢者に対する調査結果では、仕事や役に立つことを自分の生きがいだと答えている人が10名いますよね(3班のまとめた模造紙の「生きがい」のところを、畑仕事、漬物づくり、ペットの世話など仕事や役に立つことについて、下線を引いて強調する)。



T：でも、プリントを見て下さい。みなさんのなかでは、高齢者の生きがいを趣味や好きなこととイメージしている人が一番多いんです。家庭や地域での高齢者の役割についてのイメージは、高齢者の実際の考えとそうちがいはなかったけど、生きがいにはこんなにギャップがあるね。では、先生の言ったことをヒントに、ワークシートに「高齢者の考える生きがいと自分たちのイメージしていた生きがいのちがいをまとめよう。(まとめる時間をとる。授業者は、机間巡視をし、指名する生徒を予定しておく)

T：では、増田さん、どんなことが言えますか。

C₁：高齢者の人は楽しいこと、ゲートボールやカラオケなどに生きがいを感じている人が多いと思っていたけど、本当は、仕事とかに生きがいを感じていることがわかりました。

T：そうだったね。みんなも、このような主旨のことが書けたかな。

では、ここで、高齢者にとっての生きがいは、どんな意味をもつのかを知っておいてほしいと思います。何を「生きがい」とするかは、高齢者自身が決めることだよ。これがあなたの生きがいです、って言われても、本人がそれに自分を生き生きと充実させるような何かを感じないと、それは「生きがい」とはいえないね。逆に、人が何と思おうと、その人が「生きがい」だと思ったら、それが「生きがい」になるよね。このように考えると、「生きがい」とは、高齢者の一種の意志・考えの現れだといえます。また、「生きがい」は、高齢者自身が自分にとって大事だと思っている物または事、そして、生活に張りを与える物や事ともいえます。

(板書：生きがい＝高齢者自身が大事だと思っている物、事。生活に張りを与える物、事)

(学習者は板書を写している)

T：高齢者にとって「生きがい」がどれほど大事なものかわかったかな。これからの高齢社会では、高齢者もひとりの人間として尊敬されて生きていくようにするために、私たちは、高齢者自身が大事だと思っていることを理解してあげることが大切です。高齢者が何に価値を見いだしているかを理解していないと、悪意はなくても、知らないうちに高齢者から「生きがい」などを取り上げてしまっているかもしれないね。みんなには、高齢者の気持ちを理解し、見守ってあげてほしいです。趣味や楽しみだけが「生きがい」ではないことを、今回の授業で、ぜひ覚えておいてください。

では、次の課題に移ります。(授業者は、黒板にカードを貼る)

高齢者自身の考える「生きがい」を満たすための方策を考えよう

T：では、課題を考える前に、今回わかった高齢者の生きがいとは何だったか、だれかに言ってもらいましょう。鈴木さん、お願いします。

C₁：自分たちの予想とは違って、野菜作りや畑仕事を生きがいとしている人が多かった。

T：そうでしたね。今回わかった高齢者自身の考える「生きがい」を生かせるような方策を考えよう。ワークシートの2つめの空欄に、みんなのアイデアを書いてください。(授業者は、机間巡視をしながら、なかなか考えが浮かばない生徒に声かけをする。また、指名予定者を2、3名決めておく)

T：では、みんなすごくいいことを書いていたので、発表してみよう。じゃあ、大林さん、石田さん、高森さんに言ってもらいます。

C₂：家の祖母がそうなんだけど、野菜づくりが生きがいだったら、野菜をつくったとき「おいしい」と言ってあげる。野菜を無人販売(この地域には、家族用につくった野菜などの余りを小さな小屋に並べておき、地域の人に買ってもらう習慣がある)に出して、地域の役に立っていることを実感させてあげる。

T：無人販売か。農業が盛んなこの地域特有の方策だね。では、次に石田さん。

C₃：編み物を教えてもらう。話をしながらいっしょに食器を洗ったりして、高齢者が「生きがい」と感じていることを楽しくできるようにする。どんな事を「生きがい」としているか聞いて、私たちがしっかり理解する。

T：そうだね、高齢者にとって何が一番大切なことかを理解することは、いつでも大切だよ。では、最後に高森さん、お願いします。

C₄：漬物づくりが「生きがい」なら、その漬物の味、つまり、高齢者の伝統の味を受け継ぐ。犬の散歩などいっしょに行ってあげる。高齢者と何でも一緒にやって、楽しむことが大切だと思います。

T：私たちがいっしょに楽しむことって、高齢者にとってはもちろん、自分たちにとっても勉強になることが多いと思うよ。今からでも、家のおじいちゃん、おばあちゃんとかといっしょに何かやってみよう。高齢者に対する見方が変わるかもしれないね。ほかにもいい意見がいっぱいあったようです。友だちの意見で参考になったことは、ワークシートに書いておいてください。

T：今回の6時間の授業で勉強したことを生かして、これからは、身近な地域の高齢者についての学習を、自分たちでもっと深めていってください。

終わります。

2 事例の考察——学習者自らのかかわりを重視

この事例の授業は、1995年10月に、静岡県立小笠高等学校3年L組(生活科学科、女子18名)の生徒を対象に実施したものである。このような内容であれば、家庭科の必修科目「家庭一般」などでの実践も十分可能と考えるが、研究的取り組みであり、また、あとで示すように6時間の授業時間を確保する必要があるため、協力の得られた選択科目「福祉一般」の授業の中で実施している。授業者は元場由香里(当時、筆者の研究室の4年生)である。

この授業を計画するにあたってまず考えたことは、一般に、高齢者対策は地域の実情に即した形で、といわれるが、地元で共に生活している高校生の立場から、地域外の者には考えつかないようなすばらしいアイデアが出てくるのではないかとことがある。そのために、第1に地域に特徴的な高齢者問題に気づくことのできるような教材を作成すること、第2には、授業の一環で、生徒たちが主体的に地域の高齢者と接する機会として調査活動を仕組むことを考えた。具体的には、前者については、小笠町近辺の町村の「保健福祉計画」を収集し『地域の高齢者の現状と生活を支える福祉サービス』という資料集を作成し、教材とした。後者については、本単元の学習の始まる3週間前に、生徒たちに3部ずつ調査票を渡しておき、学習が始まるまでに、三世代同居で暮らしている高齢者(小笠町近郊は、静岡県下でも三世代同居の割合が著しく高い)を対象に聞き取り調査を実施しておくように指示した。調査票は、基本属性、健康状態、外出能力、病気のとき家族のだれが看病してくれるか、福祉サービスの利用実態や要望、そして生きがい・役割に関するものであり、筆者らが作成した。

単元の学習指導計画は、表8-1のとおりである。

地域の高齢者の特徴については、前述した資料集を用いて、世界の中での日本の特徴(人口高齢化のスピード)、日本の中での静岡県の特徴、静岡県の中では市町村別に見た特徴(これらはともに、高齢化率と高齢者のみの世帯率を組みあわせて示している)、そして、高齢者の就業率や住宅事情に注目させた。この授業後の感想からは、たんに日本の高齢化のスピードに驚いている者から、自分の住んでいる地域の高齢者には単身世帯が少なく住宅は持ち家が多くても老朽化などの問題が多いことなどに気づいている者まで多様であった。そこで、ここでどのような高齢者対策を課題とすべきかが大きなテーマとなった。結局、事前調査で得ていた学習者の高齢者の生きがいなどについてのイメージと、前述した学習

●表8-1 単元「私たちの地域と高齢者」学習指導計画

小単元	時数	学習内容
1 高齢者の現状	3	1・2 高齢者を中心にみたときの地域の特徴に気づく 3 高齢者福祉サービスの種類と内容を知る
2 私たちと高齢者	3	4 調査結果をグループごとにまとめる 5 調査のまとめから地域の身近な高齢者の実態を把握する 6 高齢者自身の考える生きがいと生徒の予想とのちがいを理解し、高齢者の生きがいを満たす方策を考える(本時)

者が高齢者から直接聞き取ってきた調査結果を突きあわせて、その差異に気づかせることから、高齢者の生きがいについて考えさせ、それを支えるための対策（自分にできることを含む）を考えてもらうことにした。

授業の計画段階では、高齢者の中でも最も多くの福祉課題をかかえている要介護者対策が出てくることを期待したが、学習者が集めてきた調査結果からほとんどそのような問題や要求があがってこなかった。しかし、前述したような学習者自身がともにかかわったデータ間の矛盾に気づかせることから「高齢者の生きがい」についてあらためて課題とした結果、「生きがい」対策として、学習者自らの手でできることを中心に具体的なものが出たことは、たいへん貴重といえるのではないかと考えている。

③ 展開——家庭科における「高齢者、高齢者福祉」のカリキュラム編成 ●●

福祉教育の内容は、もちろん高齢者や高齢者福祉に限定されるわけではないが、本章ではそれを切り口として、しかも、次で詳述するように、それが現行の文部省学習指導要領においても内容として組み込まれている家庭科という一教科において、具体的にどのようにカリキュラム編成を行い、実践するののかについて考察する。このようなことを、各教科や教科外活動について積み上げていくことで、やがて、「福祉教育をすべての学校教育活動の中で」という理念も具体化されると考えている。

(1) 文部省学習指導要領の場合

1989年版の文部省学習指導要領によれば、小・中・高等学校家庭科の目標は、生活に必要な知識や技能を習得するとともに家庭生活についての理解を深め、「家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ことに置かれている。学習内容としては、家族や家庭生活に関する領域と衣食住の生活財にかかわる領域、そして保育がある。

このようななかで、「高齢者、高齢者福祉」の内容は、高等学校家庭科「家庭一般」¹⁾などの「家族と家庭生活」の中において、「高齢者の生活と福祉」という形で位置づいている。その内容は、指導書によると、「(ア) 高齢者の心身の特徴と家庭生活、(イ) 社会福祉とボランティア」である。同様に今次改訂で家庭科の選択科目のひとつとして「家庭看護・福祉」という科目が新設されたが、この科目は普通科ではなく、職業課程の福祉科などで開設されるのが一般的であるので、ここでは検討の対象とはしない。

さて、前述した「高齢者、高齢者福祉」に関連する内容は、たしかに前次(1977,78年版)の小・中・高等学校学習指導要領家庭科にはなかった内容であるが、これらは、戦後、家庭科が誕生して以来、1989年の改訂で初めて登場した内容なのであろうか。答えは否であり、「戦後教育の反改革の総括」²⁾といわれる1958年の大改訂に至る直前まで、「高齢者、高齢者福祉」の内容は指導要領においても小・中・高等学校家庭科で「家庭看護」という形で取り入れられていた。この内容は、小学校では「老人や弟妹には思いやりの心をもって親切に世話ができる」³⁾、中・高等学校では「家庭における看護の技術を習得させ、病人に対する正しい態度を養う」⁴⁾などである。

すなわち、学習指導要領における「高齢者、高齢者福祉」に関連する内容は、約30年間

のブランクを経て、今日再登場したわけである。しかし、ブランク以前の「高齢者、高齢者福祉」の内容は、家族の中の、しかも、介護・看護される対象としての高齢者という取り扱いが中心であったことが明らかである。これに対して、ブランク以降の「高齢者、高齢者福祉」は、「家族と家庭生活」の中に位置してはいるものの、家族から相対的に独立させ、高齢者それ自身についての学習（高齢者の心身の特徴）を重視している点、また、その福祉は、家族の中で完結するのではなく、社会福祉や地域社会で相互に支えていくものにとらえている点の2点が大きな特徴といえよう。以上のような文部省学習指導要領にも認められるブランク前後の「高齢者、高齢者福祉」の学習内容の差異は、今後授業実践を進めるにあたって重要な示唆を与えてくれる。

（2）教科書の場合

次に、現在用いられている高等学校家庭科「家庭一般」6冊の教科書⁵⁾から、「高齢者、高齢社会」についての記述内容を明らかにしつつ、カリキュラム編成に示唆を得たい。

まず、指導要領の中で重点的に位置づけられていた「家族と家庭生活」の章では、「高齢者の生活と福祉」という節にかぎらず、「家庭の機能と家族関係」や「生活設計」でも取り上げられている。具体的には、高齢者のみ世帯の増加傾向や高齢者の子どもや孫との交流の実態、そして、高齢期までを見通した生活設計の必要性である。「高齢者の生活と福祉」の節では、高齢化と社会、高齢化と家族、高齢者自身について、その心身の特徴、社会参加、経済・所得保障、介護、医療・保健・福祉、そして子どもの側からみた高齢社会の生き方、ボランティア活動などについて取り上げられている。

特徴的な記述内容として、高齢化と家族については、高齢者のみ世帯の増加について6冊の教科書すべてでふれている。また、家族による介護の限界について述べるものも多い。高齢者の心身の特徴としては、老化や日常生活での援助の必要を述べるものが多いが、なかには「人生の大先輩」「知恵と生活文化の伝承者」、高齢期は「すべてが失われる過程ではなく、高齢期になって初めて獲得できたり、若者よりすぐれている点もある」とするものもある。高齢者の介護や福祉に関しては、「日常生活の中で本人自らがやろうとする動機付けをすることの大切さ、残存能力の活用」について、また、具体的に特別養護老人ホームの不足や在宅福祉の充実、地域の実情にあったきめ細かな施策の必要性を述べるものもある。ボランティア活動に関しては、「高校生にもできるボランティア活動のすすめ」を述べるものは2冊にとどまり、ボランティア活動の意義や定義（地域住民の参加、共生の意識を高める、高齢者・障害者からみた社会観を学ぶ、自立的な意志で行うものなど）について述べるもののほうが多い。また、この節は、ページ数でいうと、6冊いずれも章全体の22～46ページ中10ページ以上を占めている。

以上のほか、「食生活の設計と調理」の章でも、ほとんどの教科書で「家族の食事と栄養」「献立と調理」の節で、高齢者に注目させている。また、「住生活の設計と住居の管理」の章でも、すべての教科書で「住生活と社会」「住居の機能と住生活の設計」といった節で高齢者が取り上げられている。このほか、「乳幼児の保育と親の役割」の章では、6冊中3冊で、「子どもの人間形成と親の役割」の中で、父母だけでなく、祖父母も含めた環境の中で子どもが育つことの大切さが述べられていた。

(3) 家庭科の教育課程研究における「高齢者、高齢者福祉」

ここでは、家庭科の教育課程にかかわって理論的、実践的に研究した成果において、「高齢者、高齢者福祉」がどのように位置づけられているかについて検討した。この結果、大まかに3通りの考え方があり、これらは発表された時期によっても区分することができたので、発表時期の早いものから順に、その特徴を述べる。

① 「保育・看護」領域

日本家庭科教育学会が1977年にまとめた構想研究⁶⁾では、小・中・高等学校の家庭科の教育内容として、「家庭経営」「食生活」「衣生活」「住生活」に続いて、「保育・看護」領域が構想され、そのひとつの内容区分「家庭における看護」の中に、「老人の心身の特徴、老人施設の見学」が入っている。このような位置づけと内容は、さきにみた指導要領上の30年間のブランク以前にあった「家庭看護」の延長上のものと考えられる。

② 「保育・家族」領域

村田泰彦⁷⁾は、家庭科を「生活と諸科学が結合し交差する領域で成立する教科」ととらえ、その教育内容を構想するために、日々の生活過程について、①日々の生理的エネルギーの回復過程を担う衣・食・住の領域と、②世代の再生産を担う性と保育・家族の領域に分ける必要があると考えている。「高齢者、高齢者福祉」は、このうち「保育・家族の文化」の中に「高齢者・障害者問題」として位置づいている。

また、1988年に発表された日本家政学会による提案⁸⁾では、家庭科の内容構成は、「家族・保育」「家庭経営」「食生活」「衣生活」「住生活」とされる。最初にあげた「家族・保育」領域は、「家庭を構成している人間」について扱い、「他の領域の土台となる基本的な領域」とされる。「高齢者、高齢者福祉」は、この領域の最後に、「高齢者と家族・地域」という項目名で位置づけられている。

③ 「発達・保育」領域

家庭科教育研究者連盟は、現行指導要領の改訂を機に、従来の領域構成を改め、「家族・家庭」「食」「衣」「住」「人間の発達・保育（仮称）」とした（1992年）。「高齢者、高齢者福祉」の内容は、高齢社会の到来によって、「人間は生涯発達し続ける存在であることを理解し、高齢者に対するマイナスのイメージを払拭する課題が若い世代に求められる」ようになったととらえ、中学校期には「障害者、高齢者とともに生きる環境について考える⁹⁾」という内容を取り上げている。

さらに、日本家庭科教育学会は、21世紀の家庭科教育を展望して、「人間・家族の発達と生活環境・文化の創造に働き掛けることの出来る人間育成や人間の生き方に関わる教育を担う教科であることを明確に打ち出すことを念頭に¹⁰⁾」、「個人及び家族の発達と福祉」「生活資源と暮らしの知識・技術」「消費生活の営みと生活環境・文化」「総合」の4領域を構想している。「高齢者、高齢者福祉」の内容は、「個人及び家族の発達と福祉」の領域に位置づけられ、小学校では「祖父母と孫との生活」、中学校では「地域の生活と福祉」が中項目、高等学校では「高齢者の生活と福祉」が大項目として取り入れられている。

(4) 生活全体としての視点を重視したカリキュラム編成を

高齢者もまた生活する主体であり、また、家族を構成する人間のひとつの特徴的な世代

として、まず、高齢者それ自身についての学習が必要である。直井道子¹¹⁾は、家庭科の基礎的な部分として「人間理解」「人間が生活するとはどういうことか」を位置づけることを提案している。筆者もこれに同感であり、このなかに高齢者それ自身についての学習が、乳幼児期、学習する主体の世代、成人と人生を見通すなかに位置づけられることが大切と考えている。ここでの学習内容は、高齢者をかたがて「介護の対象」としてのみとらえてしまっていたことの反省の上に立って構成するべきである。

また、以上の基礎的な部分の上に、従来から家庭科の教育内容の中心であった衣食住などの生活資源の学習や、今日その重要性が高まっている消費生活、生活環境・文化、そして社会福祉にかかわる学習が必要と思われる。これらの学習においては、すべて「人生80年」の高齢社会の中で営まれる生活であることをふまえ、絶えず高齢者の視点からも問うていかねばならないと考える。

すなわち、「高齢者、高齢者福祉」の学習は、まず、生活主体それ自身の学習の中で、そして、今日すべての人々の生活に不可欠となった社会福祉の学習の中で、とくに重点的に取り上げられる必要がある。さらに、衣食住の生活資源の学習や消費生活、生活環境・文化の学習においても、生活主体のひとつの典型的な世代として、常に、他世代と同様に、高齢者にも注目しながら学習が進められる必要がある。

4 課題と展望——家庭科における「高齢者、高齢者福祉」実践にあたって ●●

(1) 身近なところから

まず、子どもにかぎらず、教師を含めて私たち(高齢者ではないと自称するすべての人々)は、これだけ「高齢社会」が声高に叫ばれ、身近に高齢者があふれているにもかかわらず、高齢者についてほとんど何も知らないことを自覚すべきと思う。したがって、「高齢者、高齢者福祉」の学習は、まず、身近な高齢者を知ることから始めるのがよいと思う。方法としては聞き取り調査によるが、ここで大切なことは、第1に、子どもたち自身が高齢者や彼らの生活の諸局面について関心のある事項について予想し、仮説を立てて、調査票を作成することである。第2には、聞き取り調査は、可能なかぎり高齢者の日常的な生活の場でを行い、さらに第3には、以上の調査結果を集計し、仮説と突き合わせる時間を確保することである。そうすれば、調査対象者が、たとえ調査者の子ども自身と同居している祖父母であったとしても、さまざまな新たな発見、これまでの認識不足が自覚できるであろう。ひとり暮らしの高齢者宅を訪問しての調査であれば、訪問し、玄関に一步足を踏み入れただけでも大きな刺激を与えてくれるだろう。ただし、以上の学習の方法は、比較的健康で自立した生活を送っている高齢者の場合である。

(2) 一人ひとりのすばらしさに気づく

今後増加するであろうし、社会的な対策の急がれる要介護高齢者、なかでも痴呆症のお年寄りについての理解についても、避けて通るわけにはいかない。幸いにも、今日ではわが国にも、痴呆性のお年寄りをテーマにした映画や介護体験記も散見されるようになった。また、その看護・介護の方法や空間的な対応についての研究や実践の蓄積も早いスピード

で進行している。それらの成果から、痴呆性であっても時折現れる人間性のすばらしさにこそ注目させ、そして症状を安定させるための人的・物的環境の大切さを伝え、そのために努力を続けている多くの人々の存在にも気づかせたい。

以上のような学習を通して、学習者のいただいている高齢者についての既成概念を突き崩し、高齢者もまた自分自身と同様に一人ひとり個性的であることを知らせたい。それは、祖父母も、両親も、やがては自分自身も「たどる道」であることから、そこまでを見通した自分の一生を考え、今の生き方を問い直すことにも発展するだろう。

社会福祉施設や在宅福祉サービスに関しては、すでに制度化されているものについての解説といった授業になりがちだが、教師が地域の身近なひとつの施設などに継続的にかかわることによって(ボランティアなどで)、その内容はまったく質の異なるものになり得ると思われる。また、福祉職員などを講師として学校へ招くことも効果的であろう。

【註・引用文献】

- 1) 現行の高等学校家庭科には、男女ともすべての生徒の必修科目として「家庭一般」「生活技術」「生活一般」(うち1科目を選択)、その他、選択科目及び職業科目として「家庭情報処理」などの23科目がある。
- 2) 「道徳」の特設、教育課程の国家基準による統制強化の中で、家庭科教育は、家庭生活に関する内容を「道徳」へもっていかれ、衣食住を中心とした技能主義的な内容に変質した(山口寛子「三 戦後の家庭科教育」「現代家庭科教育研究序説」1972年、pp.27-40.)。
- 3) 1956年版小学校学習指導要領、家庭科編
- 4) 1956年版中学校学習指導要領、職業・家庭科編
- 5) ここで検討した「家庭一般」の教科書6冊は以下に示すものであり、いずれも現行の学習指導要領下で1993年1月に検定が行われている。阿部明子ほか「家庭一般」東京書籍、香川芳子ほか「新・家庭一般」中教出版、伊藤央子ほか「家庭一般」教育図書、伊藤セツほか「家庭一般 新しい家庭の創造を求めて」実教出版、一番ヶ瀬康子ほか「家庭一般—生活をつくる—」一橋出版、樋口恵子ほか「新家庭一般」一橋出版
- 6) 日本家庭科教育学会「家庭科教育の構想研究」1977年
- 7) 村田泰彦ほか「共学家庭科の理論」光生館、1986年
- 8) 日本家政学会(編)「新時代への家庭科教育」東京書籍、1988年
- 9) 家庭科教育研究者連盟(編)「男女が学ぶ家庭科の授業 中学校篇」大月書店、1995年
- 10) 日本家庭科教育学会(編著)「家庭科の21世紀プラン」家政教育社、1997年
- 11) 直井道子「高齢化社会と家庭科教育への期待」『日本家政学会誌』1997年1月、Vol.48, No.1, pp.101-102.

第2章 「家族・家庭生活」領域の指導の工夫—実習・体験学習—

1. 本領域の学習・指導における実習・体験学習の位置

「家族・家庭生活」領域の学習・指導の方法として、実習・体験学習という方法はどのような意味、位置づけを持つのであろうか。

このことに関して、すでに田結庄順子氏は戦後家庭科の実践史研究の立場から、次のことを明らかにしている。すなわち、「1980年代、1990年代になると、それら（「板書中心」など、筆者注）に加えて、学習方法が多彩になり、「見学」「訪問交流学習」「校外体験」「観察」などが取り入れられるようになってきており、それらは教育内容に社会保障や社会福祉、高齢者福祉への理解など福祉関係が導入されたことと関連がある¹¹⁾という。つまり、「家族・家庭生活」領域の学習・指導における実習・体験学習は、社会保障・社会福祉、高齢者の生活といった教育内容と強く結びついているわけである。また、本領域における実習・体験学習を用いた授業実践は、蓄積が少ないという状況にある。しかし、以下に述べるように、昨今の中央教育審議会答申、教育課程審議会中間まとめにみる、高齢社会に対応する教育、中でも（ボランティア活動など）体験の重視、そして、家庭科における高齢者の生活・福祉に関する内容の重視の傾向から、ここで、本領域の実習・体験学習の具体的な進め方や課題について熟考しておくことは非常に重要なことである。

まず、中央教育審議会審議のまとめ（その2）（1997年6月12日）では、「高齢社会に対応する教育の在り方」という章を設け、「各学校が、こうした教育活動を進めるに当たっては、各教科や道徳、特別活動、「総合的な学習の時間」などにおける効果的な指導方法の工夫・改善を図ったり、教材を工夫・開発していくことが必要である」としている。

さらに、教育課程審議会中間まとめ（1997年11月）では、「高齢社会への対応」について、まず「各学校段階・各教科を通じた横断的・総合的な課題」の一つとして取り上げている。「さらに、家庭科では以下のように明快に示している。すなわち、高等学校において、「（前略）、少子高齢化やサービス経済化などに対応する観点から、家庭生活における男女の協力、親としての責任、高齢者などに対する理解や福祉マインドと介護の基礎、消費者としての自覚などを重視して改善を図る。そのため、（中略）、家庭生活に最小限必要とされる少子高齢社会の課題などの基礎的・基本的な内容で構成する科目を設け、（後略）」というわけである。以上の記述から、次期学習指導要領の改訂では、高齢社会や福祉についての内容は、「総合的な学習の時間」のみならず、高等学校家庭科において重点的に取り上げられることは間違いないと考えられる。

2. 先行的な授業実践にみる傾向

ここでは、実習・体験学習を導入した家庭科における「高齢者の生活と福祉」に関連する先行的な授業実践報告を手がかりとして考察を進める。分析した雑誌は、共に月刊誌である家政教育社「家庭

科教育」と家庭科教育研究者連盟「家庭科研究」の1993年1月号から1998年1月号までである。その結果、該当する実践報告は、高等学校のものばかり計10篇であった。これらは、実習・体験学習を含めた「高齢者の生活と福祉」に関連する実践が、家庭科を中心としてどういう時間に取り上げるのかによって、大きく3つに分けられた。一つは家庭科の選択必修科目（「家庭一般」など3科目）で取り上げた場合であり、第二は選択科目「家庭看護・福祉」「課題研究」で取り上げた場合、第三は家庭科以外の学校教育活動とも関連させて取り組んだ場合である。

まず、第一の「家庭一般」などで取り入れたという実践（6例）では、「高齢者の生活と福祉」の単元に充てる時間数が全体でも3～10時間といずれの実践でも時間数が限られている。そのため、この場合の実習・体験学習は、6中4例で授業時間外の生徒自身の取り組みである。極端な例では、授業で自主的活動を大いに促し、それを含めて評価の対象にした²⁾というものもある。限られた授業時間内には取まらないが、高齢者や彼らの生活を理解することをねらいとして、単元の最初にグループの自由課題研究を課しておき、最後の時間に発表させるというもの³⁾、また、単元の学習の前後の時期に合わせて、学校家庭クラブで老人ホームへの訪問を2回実施したというもの⁴⁾、さらには、「冬休み中の希望者による」施設見学やボランティア活動を実施した例⁵⁾もある。いずれにしても「家庭一般」などの授業の中でこれらの実習・体験活動を行うには、時間数の不足のみならず生徒数の多さや施設までの距離など課題が多く、実習・体験学習は一部の生徒に留まるものが多い。その他、残る2例では授業時間中に実施（すなわち、すべての生徒が関わる）していたが、その体験は、他者、そしてハンディを理解することをねらいとする、高齢者、視覚障害者、車椅子などの疑似体験である^{6)・7)}。これらの内、「試食体験」において、「食べさせる」体験だけでなく「食べさせてもらう」体験（介護体験ではなく介護される体験）にも注目していることは、後述するように今後重視したい点である。

第二の、家庭科の選択科目で実習・体験学習を取り入れた実践は、普通科の選択科目「家庭看護・福祉」における実践⁸⁾、農業高校生活科学科・生活福祉コースにおける「家庭看護・福祉」「課題研究」さらに農業科目の「総合実習」の一部をも組み込んだ実践⁹⁾である。これらの実践では、病院や老人ホームなどの施設での看護、介護実習（宿泊や同一施設における数週間に亘る実習も含む）や校内で地域の高齢者と共に食事をするなどの体験学習が組み込まれている。これは、単に高等学校の種類によるばかりではなく、周辺地域の実状（施設などが近くにあるなど）とも関わっている。

第三の、家庭科以外の学校教育活動とも関連させて取り組んだ例としては、次の2例がある。農業高校における「総合実習」での実践¹⁰⁾と、学校全体のふれあい教育の体制のもとでの実践¹¹⁾である。前者では、生徒たち自身が決めたテーマ、目標、内容に基づいて、実際に一年間かけて追求していった成果の内、「老人問題」と「障害者と共に」というテーマの例が紹介されている。後者は、11年前の開校以来、学校の教育目標としてふれあい教育が掲げられ、学校全体としてボランティア学習会（LHRの時間を活用）、夏休みのフィールドワーク、三世代交流会などの機会が設けられ、各教科でもその一環としての教育を展開しているというものである。必修「家庭一般」では、福祉マップ作りやノーマライゼーションの学習、そして先輩たちがまとめた「上郷の語りべたち」を用いることによって、地域の暮らしの移り変わりについて学習した様子が報告されている。

3. 今後の「家族・家庭生活」領域における実習・体験学習への提案

本稿では、「家族・家庭生活」領域に属する内容の内、特に「高齢者の生活と福祉」に関わる実習・

体験学習について検討してきた。2で明らかにしたように、この領域における実習・体験学習は、大まかには三通りの取り組みの場が考えられよう。一つは、選択必修3科目（次期改訂によって名称や内容の変更と共に単位数減の可能性も懸念される）の中での取り組み、第二は、職業課程やコースを中心とする家庭科選択科目の中での取り組み、そして、第三の、学校全体の教育目標に基づく諸活動と一体となった家庭科「高齢者の生活と福祉」の学習である。今後はさらに、これら各々と、新設「総合的な学習の時間」における活動との組み合わせが加わり、家庭科「高齢者の生活と福祉」の学習は地域や学校の性格によって著しく多様化すると予想される。以下、本領域における実習・体験学習における基本的な課題と提案を述べておきたい。

(1) 実習・体験活動のねらいはどこにあるのか

1で紹介した中央教育審議会の審議のまとめでは、「高齢社会に対応する教育の在り方」の章の最後が、これらの体験活動を通して「将来、ボランティア活動を自然に行うようになってほしいと願っている」と結ばれている。すなわち、ここでいう「高齢社会への対応」のねらいは、福祉関係のボランティアを育てることに置かれているようであり、それは厚生省の福祉マンパワー政策¹²⁾と連動している。しかしながら、このようなねらいについては、次の二点について検討した上で掲げるべきと考える。第一点は、これからのわが国の高齢社会におけるボランティアの位置づけを、高齢者、すなわち介護される者の立場に立って検討することである。高齢化先進国スウェーデンにおいては、この議論を尽くした結果「生活の自立をサポートするケア・サービスのような仕事は、公的な職員と家族・友人によって担っていく」¹³⁾という線を出しているという。わが国で、政策的に福祉マンパワーの一つとしてボランティアを期待するのであるならば、彼らに福祉関連サービスの内一体どのような仕事をどこまで分担してもらうのか、はっきりさせておく必要があると考える。検討すべき二点目は、学校での体験活動によって、果たして将来のボランティア活動家が育っていくものかどうかということである。この検討結果を得るには長期間を要する。2で検討した生活福祉コースで施設学習からボランティアまで取り組んだ西里先生は、「高校生にとってボランティアは“サークル活動”や“趣味”に近いものである」⁹⁾という実感を持ったという。それは、自己主張の一つであり、何より自分から望んだ活動であることが重要という。しかし、現状では、学校でこのような形でボランティア活動を行った生徒たちでさえ、将来、ボランティア活動家として地域の中で活躍していくのかどうか検証されてはいるわけではない。いわんや、教師主導でボランティア活動をやらされた生徒たちの将来は、まったくわからないといえよう。いずれも、経済大国といわれて久しいわが国における福祉マンパワー政策としては無責任な内容といえ、再検討を要すると考えている。

さて、実習・体験活動の場としての地域に注目すると、2で検討したわずか10篇の実践の行われた学校の状況だけみても、施設までの距離が遠くて授業時間内に実習・体験学習が組み込めないというものから、施設学習一覧として11施設を挙げ「ほとんど徒歩か、車で10分以内の範囲に」あるとするもの⁹⁾まで、大きな開きがある。90年代に入り福祉政策に関わって市町村の権限が増大したことを考慮すると、地域差はさらに拡大していく方向にある。小規模市町村の財源問題は看過できないことではあるが、しかし、これは地域住民の主体性が生かされるという積極面をも持っている。地域住民の考え方が地域の福祉に直接反映するというわけである。筆者は、本領域の実習・体験学習の最終的なねらいは、ここ、すなわち、地域に住む人々の生活の現実をしっかりとみつめ、今後、自分も含め幸せに暮らすためにはどのような福祉対策が必要なのか考え、創り上げていく力を育てることにあると考えている。

(2) ハンディキャップなどの疑似体験

現行必修家庭科の授業時間内での体験としては、時間数や人数規模、施設までの距離などの多くの制約の中で、ハンディキャップなどの疑似体験が唯一取り上げられていた。この体験は、全生徒が参加できる可能性が最も高い体験であるだけに、慎重でありたいと考えている。というのは、基本的に、短時間の疑似体験によって、障害、あるいは障害者の理解が深まるということはある得ないと思うからである。例えば、視覚障害者の疑似体験ということでアイマスク体験を想定すると、それによって確かに「目の見えない」体験はできるものの、現実には、視覚障害者の方々の視覚以外の身体全体を使って「見ている」体験を疑似体験しているわけではない。授業には視覚障害者に参加してもらい、直接話を聴くなど、これらの点を押さえた上でのアイマスク体験とすべきであろう。

また、2でも触れたが、有効と考えられる疑似体験の一つとして、「介護体験」ではなく「介護される体験」がある。兵庫県内のある特別養護老人ホームでは、町の役場の職員や町会議員を含めて「寝たきりはしんどいなあ研修」というユニークな取り組みをしている¹⁴⁾ということである。寝たきり体験、オムツ体験（排泄を含む）などによって、体験者は高齢者の立場でものを考えてみることの重要性がわかったという。学校では、寝たきり体験は難しくても、「食べさせてもらう」体験は比較的簡単に実施できよう。両手が使えない、又は横になった状態で「食べさせてもらう」体験の「しんどさ」は容易に想像でき、生徒たちにも貴重な体験として残ると考えられる。

註・引用文献

- 1) 田結庄順子編著『戦後家庭科教育実践研究』梓出版社、1996、p.266、267
- 2) 中谷ゆう子「高齢化社会と私たち」『家庭科教育』家政教育社、1995年9月、pp.106-110
- 3) 大本久美子「高齢者の生活と福祉の教材展開(1)(2)」『家庭科教育』家政教育社、1996年4、5月
- 4) 上浦澄子「高齢者の生活と福祉を中心にして(1)(2)」『家庭科教育』家政教育社、1997年4、5月
- 5) 石井麻恵「意欲的に生きる力を培う家庭科の指導」『家庭科教育』家政教育社、1995年3月、pp.105-110
- 6) 長谷川美津代「生活を主体的に営む力を育てる家庭科教育を目指して(6)」『家庭科教育』家政教育社、1994年9月、pp.103-110
- 7) 増茂智子「ハンディについて考える学習の試み」『家庭科教育』家政教育社、1997年7月、pp.50-55
- 8) 大沼洋子「新科目、教科書のない家庭看護・福祉の実践」『家庭科教育』家政教育社、1997年4月、pp.53-60
- 9) 西里ひろ子「生活福祉コースの現状」『家庭科研究』家庭科教育研究者連盟、1994年7月、pp.20-27
- 10) 吉澤澄子「人生80年代を生きる(3)ともに生きる『総合実習』の取り組み」『家庭科研究』家庭科教育研究者連盟、1993年5月、pp.53-59
- 11) 加藤美恵子「ふれあい教育の視点に立った家庭科教育の展開(2)(3)(4)」『家庭科教育』家政教育社、1993年12月、1994年1、2月
- 12) 厚生省「保健医療・福祉マンパワー対策本部中間報告」(1991年3月)では、国民皆参加の社会づくりを提起し、ボランティア活動促進のための福祉教育の推進を述べている。
- 13) 外山義「クリッパンの老人たち—スウェーデンの高齢者ケア—」ドメス出版、1990、p.87、88
- 14) 山井和則ほか「体験ルポ日本の高齢者福祉」岩波新書、1994、p.76

第3章 「住生活」領域における授業実践研究

—大学生と高齢者の個人的生活空間を教材として—

第1節 授業研究計画

1. 授業研究計画の概要

(1) 授業実践研究の目的

本授業実践研究は、第一に、高等学校家庭科住生活領域において、「自分らしい住まい方」についての学習を進めるために、個人的生活空間を教材として、どのように展開していけばよいかを検討するものである。ここで教材とする個人的生活空間については、高校生にとって近い将来である「大学生の一人住まい」と、遠い将来である「高齢者の一人住まい」を取り上げることにした。以上二世代の個人的生活空間を教材とすることによって「自分らしい住まい方」の学習についての効果を明らかにすることを目的とする。

第二の目的は、高等学校家庭科住生活領域において、高齢者福祉教育をどのように展開していけばよいか検討するものである。1989年版高等学校学習指導要領によると、高齢者福祉教育についての学習は、「家族と家庭生活」という領域の中で「高齢者の生活と福祉」という項目が位置づけられるようになった。しかし、依然として衣食住といった領域では取り上げられていない。高齢者は特別な人間というわけではなく、生活者の一員である。将来的には、誰もが高齢者となり得ることを考慮すると、高齢者福祉教育は、衣食住といった生活の各場面で取り組まれる必要がある。本授業実践研究では、高等学校家庭科住生活領域において、「高齢者の一人住まい」として「大学生の一人住まい」と空間的条件がほぼ同じであるケアハウスを教材として取り上げる。「高齢者の一人住まい」と「大学生の一人住まい」を比較することで、高齢者の理解がどこまで深まるものなのかに注目する。

(2) 授業実践の仮説

本授業実践では、学習者に対する事前調査、指導計画の立案、学習指導案の作成、授業実践、授業分析、授業評価という一連の授業研究を行うことにより高等学校家庭科住生活領域において個人的生活空間を教材としてどのように展開し得るかを、具体的に考察するため、以下の仮説を設定した。

- 仮説①—授業の導入として、学習者にとって近い将来である大学生の一人住まいを教材に用いることにより、学習者の住生活に対する興味・関心を高めることができる。
- 仮説②—自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の一人住まいを教材として用いることにより、空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくるのがわかる。(仮説②-1) また、大学生と高齢者の住まい方を比較することで、住まい手の年齢によっても住まい方が違ってくるのがわかる。(仮説②-2) さらに、自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の住まい方を学習することで、自分らしい住まい方について考え今後に生かそうとする。(仮説②-3)
- 仮説③—住まい方の実態を知ることで、高齢者の生活や、趣味などの理解が深まる。

(3) 授業実践計画の概要

以下のような計画のもとに授業研究を進めていく。

〔授業の設計〕

① 授業実践校

静岡県立磐田南高等学校で、2年生の普通科2クラス(203HR・男子17名・女子24名・計41名、207HR・男子32名・女子9名・計41名)を対象とする。

授業者は、筆者自身である。

②事前調査

授業に入る前の生徒のレディネス形成と、生徒の実態を調査するために、授業実施前に行う。(頂いた時間の関係から、授業実践時間内に行った。)調査は、記名自記式の質問紙法で、小学校・中学校での家庭科住生活領域の既習学習状況、家庭科において興味がある領域、家庭科住生活領域において興味がある項目内容、現在の住まい及び自分の部屋・スペースについて、ケアハウスの知識、「高齢者」のイメージ、将来1人暮らしをしたいか、以上を明らかにするために実施する。

③指導計画の立案

「自分らしい住まい方 ― 個人的生活空間に注目して ―」という題材名で、「1. 大学生の一人住まいの様子」、「2. 高齢者の一人住まいの様子」、「3. 自分らしい住まい方」、を設ける。1時限65分の授業を2回行い、1回目の授業(授業①)で1.を、2回目の授業(授業②)で2. 3.を行う。以下を題材の目標とする。

< 関心・意欲・態度 >

- ・住生活に関心を持つ。
- ・自分らしい住まい方を考え、今後に生かそうとする。

< 創意工夫 >

- ・自分らしい部屋の構想を考える。
- ・使用目的や機能に応じた室内装飾と美化の工夫をする。

< 技能 >

- ・部屋の構想を簡単な略平面図に表す。

< 知識・理解 >

- ・高齢者の生活や趣味などを理解する。
- ・空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の年齢や個性によって住まい方が違ってくるのが分かる。

④学習指導案の作成

事前に学習指導案を作成し、生徒の反応や学習の展開状態に応じて修正していく。基本的に2クラスとも同じものとする。

〔授業の実施〕

⑤実施準備

授業に先立って、授業で使用する教材・教具の作成を授業者が行う。具体的には、資料やワークシート、静岡大学生の一人住まいのVTR、拡大平面図、ケアハウスの写真をのせたOHPシートである。

⑥授業実践

指導計画に従い、1時限65分の授業実践を2回行う。また、VTR、カメラを用意し、授業の記録をする。

⑦資料取り

授業中に記述するワークシート(3枚)や、授業の感想(2枚)、2回の授業終了後の事後調査を行い資料とする。

⑧授業記録作成

授業実施時に採取した各種の記録を総合して、授業記録を作成する。

〔授業の評価〕

⑨授業分析

事前調査、ワークシート、授業後の感想、事後調査からは学習者の立場、授業記録からは授業者の立場から、学習者の思考の変化や、授業内容、授業方法について分析する。

⑩授業評価

分析の結果から授業の評価を行い、高等学校家庭科住生活領域において「自分らし住まい方」について学習するため、個人的生活空間を取り上げた教材のあり方を検討するための一つの手段として、本授業実践に、どのような効果があったか、また、今後の課題は何であるのかを明らかにする。

表2-1-1-1 授業実践計画の概要

授業 の 設 計	①授業実践校 ・授業実践校 ・実践対象学級 ・授業者	静岡県立磐田南高等学校 203HR（普通科）41名（男子17名・女子24名） 207HR（普通科）41名（男子32名・女子9名） 増田香織	
	②事前調査	203HR	207HR
	・調査日時 ・調査対象	平成10年9月3日 第4時の始めの10分 203HR（41名）	平成10年9月3日 第3時の始めの10分 207HR（41名）
	③指導計画の立案 ・題材名 ・小題材	「自分らしい住まい方—個人的生活空間に注目して—」 1. 大学生の1人住まいの様子 2. 高齢者の1人住まいの様子 3. 自分らしい住まい方	
④学習指導案作成	1時限65分の授業で、2時限分の学習指導案を事前に作成する。1回目の授業の始めの10分は、事前調査にあてる学習指導案作成の際には、既習の学習内容を考慮するとともに、生徒の反応や学習の展開状態に応じて修正していく。基本的には、2クラスとも同じものとする。		
授業 の 実 施	⑤実施準備 ・教材、教具の作成	各授業の準備物の作成を行う。	
	⑥授業実践	203HR	207HR
	・実践日時・場所	授業① 平成10年9月3日 第4時 視聴覚室 授業② 平成10年9月10日 第3時 視聴覚室	授業① 平成10年9月3日 第3時 視聴覚室 授業② 平成10年9月11日 第5時 視聴覚室
	⑦資料取り ・採取日時	ワークシート（3枚）授業①時に2枚、授業②時に1枚 授業の感想（2枚）授業①、②それぞれの授業時 事後調査 授業②終了後から1週間後の小杉教諭の授業時	
⑧授業記録作成	授業実施後、実施時に採取したVTR、カメラ等の記録をもとに授業記録を作成する。		
授業 の 評 価	⑨授業分析	事前調査、ワークシート、授業後の感想、事後調査、授業記録から、学習者の思考の変化、授業内容、授業方法等の分析をする。	
	⑩授業評価	高等学校家庭科住生活領域で、「自分らしい住まい方」についての学習を進めるにあたって、教材として個人的生活空間を取り上げ、そのあり方を検討する上で、本授業の有効性と、残った課題の検討をする。	

2. 事前の学習内容

授業を設計するときには、学習者の実態把握や学習指導案の作成、教材研究などの他、学習者の既習の学習内容との関連を考慮する必要があると考える。

ここでは、授業実践対象である静岡県立磐田南高等学校の203HRと207HRの高等学校1年から2年の1学期までの家庭一般の授業の内、本研究に関連する授業内容（「家族と家庭生活」領域の「高齢者の生活と福祉」と住生活領域）を取り上げる。

(1)「高齢者の生活と福祉」の学習内容（1年の1学期に実施された。）

以下は、指導計画の概要である。

指導内容	具体的な内容
高齢者社会と家族・家庭	身近な高齢者の聞き取り調査 VTR「痴呆老人の症状（20分）」視聴 グループ発表①高齢者社会とは何か ②高齢者の特徴 ③高齢者の生活 高齢者の経済生活 高齢者の健康 高齢者の生き甲斐
高齢者福祉	VTR「ある特養ホームの取り組み（30分）」視聴
社会福祉の理念と実情	グループ発表④ゴールドプランとは何か ⑤福祉施設とは何か ⑥在宅施設とは何か ⑦社会福祉が進んだ国の高齢者福祉の現状と我が国の比較 ディベート（テーマ）「自分の親の老後は施設利用か在宅ケアか」 VTR「公的介護保険 介護は変えられるか（30分）」視聴 VTR「二人でシチュエーションを作りたい（30分）」視聴 障害者の自立と援助のありかた、ノーマライゼーション、マンパワー
ボランティア活動のありかた	全体討議（テーマ）「高齢者と障害者等、弱者が安心して住める社会」 車椅子・アイマスク体験、磐田市の福祉点検点字・手話等福祉技術を体験

授業実践校である静岡県立磐田南高等学校は、平成8・9・10年度、静岡県社会福祉教育実践指定校となっている。そのため以上のように学習内容が充実しており、学習方法、学習形態にも工夫が成されている。しかし、「家族と家庭生活」という領域の中で高齢者福祉教育が行われているため、衣食住といった生活の各場面での学習内容がほとんどない。高齢者も私たちと同様に、生活者の一員ということとを考慮すると、「家族と家庭生活」以外の領域（衣食住）でも扱っていく必要があるのではないかと。

本授業実践研究では、住生活領域で「高齢者の一人住まい」の住まい方について取り上げる。

(2)住生活領域の学習内容（1年の3学期に実施された。）

指導計画の概要はないので、授業で扱った資料、ワークシートから学習内容を見ていく。

<チラシ広告の検討（私の住みたい家）>

チラシ広告の中から自分の住みたい家を選び、選んだ理由を書いている。また、どのような住まい方をするか、各部屋の使い方やどのような内容を充実させていくか等も書いている。

<サザエさんちの間取り>

サザエさんちの間取りを見て、そのよい点、悪い点を考えている。また、改造案の間取りを見て、改造のポイントを考えている。

サザエさんちの間取りを「明るい家庭のモデル」とし、凶悪犯罪事件を起こした人の家の間取りを「悪い家のモデル」とし、「悪い家のモデル」の間取りの問題点を考えている。

<自分の住まいを見直そう>

ある農家の住生活を間取りからみて、その問題点を考えることを通して、自分の住まいを見直している。

<住居の機能>

住居の機能についての確認をしている。

<住空間の移り変わり>

明治以降の我が国の住空間の変遷について、それぞれの時代の住空間の型の平面図を見て、住みよい点と住みにくい点を考えている。

<ライフサイクルと住居>

それぞれのライフステージで、どんな住居が必要とされるか確認したり、老後の居住パターンを①同居型、②近居型、③隣居型、④別居型のそれぞれの型について考え、どの型がよいかを選択している。また、子供部屋のあり方について考えている。

<住宅の構造>

住宅の構造によるそれぞれの長所、短所を確認している。

<健康な住まい>

健康な住まいの条件の確認をしている。（建築基準法、日射しを防ぐためのひさしについて、窓について、断熱と熱容量の効果について）

それぞれの事態に対する対応を考えている。（例：ガス漏れが起こった時など）

<安全な住まい>

自分の住居の安全チェックリストを作っている。

「高齢者・障害者も住みやすく」という参考資料を読み、「障害者が安全で快適に生活できる住居」について意見を書いている。

<設計とインテリア>

和様折衷のゆとりのある住居の平面図に6人家族（両親、中学生と高校生の子供、祖父母）が住むとした場合の部屋の割り振りを図面に書き込んでいる。

家族構成、敷地、住宅規模を設定して理想的な間取り図を書いている。また、寸法を入れたり、家具・畳なども入れている。

<住居と社会（住宅問題）>

住宅統計調査、住宅政策の確認をしている。

1DKの住宅情報の例を参考にし、住居を借りるときについて考えている。

住宅ローンの返済額の計算をし、住宅を購入するときについてを考えている。

以上の住生活領域の既習の学習内容をみると、<チラシ広告の検討>や、<サザエさんちの間取り>、<自分の住まいを見直そう>、<住空間の移り変わり>、<設計とインテリア>などの項目で、間取り図から家族の住まい方を考えたり、家族の理想とする住まい方から間取りを考え設計している。これは、現行の学習指導要領に準拠した一般的な学習内容といえ、自分自身の住まい方については深く考えられていないようである。

<安全な住まい>という項目で、高齢者や障害者も住みやすい住居について考えている。しかし、高齢者の実際の住まい方まではふれていない。また、バリアフリーについてふれてはいるが、あまり具体的な写真、絵などがないため、バリアフリーとはどう言うものかという実感がわきにくいのではないかと思われる。

以上のことを考慮して、本授業実践研究では、個人的生活空間に注目させ、自分自身がどう住まうかについて考えさせたい。また、個人的生活空間として、「高齢者の一人住まい」（ケアハウス）を取り上げ、具体的に高齢者の住まい方やバリアフリーデザインをOHPを使って見せていこうと思う。特に本授業実践研究では、自分らしい住まいについて考えてもらうため、自分自身の趣味や生き甲斐としているものを中心にして整えられている「高齢者の一人住まい」を教材として取り上げる。

既習の学習内容から見ると、平面図をある程度読め、書くこともできると考えられるので、授業実践研究では、「大学生の一人住まい」と「高齢者の一人住まい」の住まい方の様子を見ていく際に、平面図を使っていく。また、自分らしい住まい方を考えてもらうため、「大学生の一人住まい」で紹介した平面図で、住まい方を具体的に考えてもらう。

4. 学習指導案の作成

(1) 学習指導案

ここでは、本授業実践の題材である「自分らしい住まい方—個人的生活空間に注目して—」の題材目標及び指導計画、題材観、対象生徒（203HR, 207HR）の実態について述べていく。

1) 題材目標

< 関心・意欲・態度 >

- ・住生活に関心を持つ。
- ・自分らしい住まい方を考え、今後に生かそうとする。

< 創意工夫 >

- ・自分らしい部屋の構想を考える。
- ・使用目的や機能に応じた室内装飾の美化の工夫をする。

< 技能 >

- ・部屋の構想を簡単な略平面図に表す。

< 知識・理解 >

- ・高齢者の生活や趣味などを理解する。
- ・空間的条件が同じである個人的生活空間でも、住まい手の年齢や個性によって住まい方が違ってくることがわかる。

2) 指導計画（配当時間2時間）*1時限は65分である。

1. 大学生の一人住まいの様子 _____ 1時間（授業①）

2. 高齢者の一人住まいの様子 _____

3. 自分らしい住まい方 _____ 1時間（授業②）

3) 題材観

人はみな住まいのなかで育ち、家庭生活を営み、老後をむかえる。住まいとそれを取りまく地域の環境は、私たちが長い人生を過ごす生存の基盤であり、生活の器である。

しかし、西山卯三氏は「住まいを見直す」という著書の中で次のように指摘している。

「日本の現状は、家づくりと住宅供給の大部分がメーカーの手ににぎられ、金もうけの手段としての商品になっています。国民は、住宅の確保は個人の甲斐性の問題と思いきまされたうえ、これらの商品を押しつけられています。（中略）わが国の住宅政策が国民の暮らしといのちを守ることを念頭におかず、景気浮揚と企業の金儲けの手段に墮している原因のひとつは、わたしたち自身の住まいへの関心の低さにもあるというべきでしょう。」¹⁾ 以上のように、西山卯三氏は、住宅政策が国民の暮らしといのちを守ることを念頭におかず、景気浮揚と企業の金儲けの手段に墮している原因のひとつに、わたしたち自身の住まいへの関心の低さをあげている。また、同書の中で田中恒子氏は、「今日の私たちの生活状況は、住宅をもふくむモノの所有量を競わせることによって、かぎりなく要求をあおりたてられています。個々の家庭にとって必要か否かを判断する以前にもう買わされてしまっています。（中略）結果として個々の住宅の内部はモノであふれ、その整理をすと称してさらに小型家具を購入し、それがまた居住面積をいっそう狭くしています。この悪循環の由来は、「私はこう住みたい」という主張がないためであり、さらに「私はこんな家庭をつくりたい」という主張のなさにあります。」²⁾と述べている。住むことをモノの側から考えるのではなく、人の側から考えるという視点、つまり自分自身がどう住みたいかというような主体性が大切であることを述べている。

住まいのあり方を考えさせられる絵本のひとつである「パーバパのいえさがし」（アネット・ティソン、タラス・テイラー作、やましたはるお訳、講談社、1975年）には、これからの家づくりは、与えられた「ハコ」ではなく、住み手が家の形を決め、各自の趣味にあわせて個性的な家をつくることに自主的にかかわることによって、わが家らしさや、個性を実現する方向に向かうべきではないかということが見事に描きとられている。つま

り、「固い箱」を「柔らかい家」に変えるためには、その住み手の関わり如何であり、積極的な住み手の関わり方が、住むことに自分らしさや生きがいを見いだしていくことになるというのである。

以上のことから、子どもにとって住空間の中で最も自らの裁量が生かしやすい、個人的生活空間を取り上げることは意味のあることだと考えた。しかも、本題材の対象者である高校生は、近い将来今の家族から自立して一人で生活していく生徒も多いということや、発達段階からみても個人的生活空間は、自分の趣味生活、衣服やヘアスタイルの延長上にある自己表現の場となりうることから、個人的生活空間を取り上げることは意味のあることだと考えた。

本題材では、個人的生活空間を取り上げ、自分らしい住まい方について考えさることで、積極的に住み手として関わり、住生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育てることを目標としている。個人的生活空間のように、かぎられた空間をどう使うかということとは、生き方の反映であり、もう少し積極的な言い方をすれば、生き方の表現であるといえる。空間にはかぎりがあるのだから、あるものを置けば、他のものを同一の空間には置けないということになるし、置きすぎれば片づかなくなる。このことをしっかり心にすえて、自らの生活を見直せば、今日の住生活の矛盾が見えてくるし、個人の努力で解決すること、家族の手助けによって解決すること、さらに、そんな住生活をさせる背景となっている住宅政策や経済政策も見えてくるはずである。

本授業の最初に、大学生の一人暮らしの実態や住まい方の様子を学習することで、生徒の近い将来であることから、住生活に興味・関心を示すのではないかと思われる。また、同じ一人暮らしでも年代が異なり、特に自分の生きがいや趣味などで整えられた高齢者の一人住まいの様子を知ること、より深く自分らしい住まい方とは何か考えることができるのではないかと思われる。さらに、大学生と高齢者の住まい方、大学生同士、高齢者同士の住まい方を比べることで、高齢者についての理解を深め、また、住まいと住まい手との関わりについて考えることができるのではないかと思われる。最後に、自分はどう住みたいかを平面計画することで、自分自身の生活を改めて見つめ、生活の主体者であるという自覚を持つと同時に住まいに対して意識が高まり、それは、将来家族や、複数で住むときに、住まいや住まい方を主体的に考えていく力の基礎にもなり得ると考えられる。

4) 生徒の実態

授業を行う前に、生徒の実態を把握するため事前調査を行った。調査内容は、①小学校・中学校での家庭科住生活領域の既習学習状況、②家庭科において興味がある領域、③家庭科住生活領域において興味がある項目内容、④現在の住まい及び自分の部屋・スペースについて、⑤将来一人暮らしをしたいか、⑥ケアハウスの知識、⑦「高齢者」のイメージ、である。以上の調査結果をもとに生徒の実態を述べる。

①小学校・中学校での家庭科住生活領域の既習学習状況をみると、81名中10名(12%)しか学習した内容を覚えていない。また、学習した内容を覚えている生徒も学習した内容がそれぞれ異なっている。しかし、すべての生徒が1年時に住生活領域の学習を終えているため、授業で使用したプリント類を見ると、「家庭一般」の教科書に載っている程度のこととは、学習済みであると判断できる。従って、ほとんどの生徒は平面図を読めるだろうと考えられるが、現行の学習指導要領に準拠した一般的な学習内容のため、自分自身の住まい方については深く考えられていないと推測できる。

②高等学校家庭科において興味がある領域で、「食生活に関すること」の次に「住生活に関すること」に興味を持っている生徒が多かった。

③高等学校家庭科住生活領域において興味がある項目内容を見ると、設定した19項目のほとんどに興味を示す生徒が多いが、その中でも特に興味を示しているものは、インテリアデザインであった。また、平面計画に関する項目においては、よく授業で行われる一戸建てや集合住宅、共同生活空間(居間、食事室など)、家事労働空間(台所など)よりも個人的生活空間の平面計画に興味を示す生徒が多かった。しかし、本授業で扱う高齢者についての項目に「大変興味がある」と答えた生徒は、「高齢者の生活と課題」について学

習済みであるにもかかわらず意外に少なかった。

④現在の住まい及び自分の部屋・スペースについての質問で、住まいに関心がある生徒は過半数いた。また、71名(88%)の生徒が自分専用の部屋を持っており、多くの生徒の部屋は家具や電化製品も充実している。自分の部屋・スペースの模様替えや、工夫をしているという生徒は、それぞれ過半数いたが、個性(自分らしさ)があるかについては、「とても自分らしい」と自信をもって答えた生徒は16名(20%)しかおらず、「ふつう」と答えた生徒が一番多かった。過半数の生徒が住まいに関心があるなか、部屋の管理状況を見ると中には、まだ親に掃除をしてもらっているという生徒が35名(43%)もいた。

⑤将来一人暮らしをしたいと答えた生徒は、69名(85%)もいた。授業実践校の静岡県立磐田南高等学校は、進学校であるため、卒業後の進路として進学する生徒が多数を占めるため、将来といっても大学生として一人暮らしをしたいと考えているのだろうと考えられる。

⑥ケアハウスという言葉を知ったことがあるという生徒は、12名(15%)のみであった。そのなかで、正しくケアハウスについて認識している生徒は、1名だけであった。「高齢者の生活と課題」という項目で、ゴールドプランについても学んであることから、ケアハウスの存在をもっと多くの生徒が知っていると思っていたが、あまり知られていなかった。ケアハウスで生活している高齢者の一人暮らしについて本授業では扱うので、ケアハウスとはどういうものか分かるように授業のなかで工夫したい。

⑦「高齢者」に対してのイメージでは、明らかにマイナスと思われるイメージを持っている生徒や、どちらかといえばマイナスと思われるイメージを持っている生徒が多く、プラスと思われるイメージを持っている生徒はわずか4名のみであった。このような状況をみると、高齢者をあまり特別視せず一人の生活者として見ていくことも大切であるのではないかと思う。

(2)学習指導案の内容

授業①、授業②それぞれの学習指導案の内容を説明する。

【授業① 第1時限目】

本時の最初の10分間で、事前調査を行う。本研究授業に割いてもらうことのできた授業時間や日程との関係でそうせざるをえなかった。

本時では、「大学生の一人住まいの様子」という小題材を設定し、近い将来である大学生の一人住まいの様子を知ること、住まいに興味・関心を持つことを目標とした。また、授業②で扱う高齢者の一人住まいについて興味を示してもらうため、同じ一人住まいでも、生徒が興味を持っていそうな大学生の一人住まいを授業①では扱うことにした。

まず、静岡大学生の一人住まいの家賃、広さ、置いてある家具・電化製品、下宿を決める際重視したことを生徒に予想させた後、予め同研究室の学生が実施した静岡大学生107名対象のアンケート調査をもとに実態を伝えることにした。家賃などのように生徒が興味を持っていそうなことを本時の導入とした。生活感まで、把握させることを目的に、家具・電化製品についても予想してもらう。生徒が主体的に授業に関われるように予想してもらう。

続いて大学生の部屋の様子(住まい方)を伝えるため、予め筆者が調べた静岡大学4年女子6名の一人住まい(居室に自分なりの工夫がなされていると筆者が考えた住まいを選んだ)の間取り等を平面図に書いた資料を配り、そのうち間取りがほぼ同じである平面図2つを比較してもらい、さらに、その間取りを拡大したワークシート上に家具類の配置作業をしてもらう。同じ間取りでも、住まい手によって家具の配置が変わってくることや、部屋の感じが変わってくることに気付くだろうと考えた。また、授業②では、自分がどう住みたいかを平面計画で表してもらうため、その作業にスムーズに入れるように考慮した。ここでは、何人か黒板でやってもらい、生徒同士の比較も行いたいと考えている。

次に、先に配付した平面図の静岡大学4年女子6名の一人住まいの様子を撮影したVTRを視聴させる。平面図とVTRを同時にみることで、どのように実際、空間を利用しているかを分かりやすくし、また、空間を平面図に表すことや平面図を空間としてイメージすることができると思った。

最後に、授業を通して印象に残ったことや住まいへの関心に影響を与えたことを中心に感想を書いてもらう。この感想をもとに仮説①を検証する。

【授業② 第2時限目】

本時では、「高齢者の一人住まいの様子」と「自分らしい住まい方」の2つ小題材を設定し、次の3つを目標とする。

- ・大学生の一人住まいと空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間として、ケアハウスで生活している高齢者の一人住まい、(特に、自分の生きがいや趣味などが住まいに表れている住まい)の様子を何例かOHPで見ること、ほぼ同一の平面図の住まいでも、住まい手によって、住まい方が違ってくることを知る。また、高齢者の生活や趣味などを理解する。
- ・近い将来である大学生の一人住まいの住まい方について計画することで、住まいに主体的に関わろうとする。

本時では、ケアハウスで生活している高齢者の一人住まいの様子を見てもらうので、ケアハウスの説明を資料を使って説明する。事前調査の結果を見るとケアハウスのことを知っている生徒が少なかったので授業の最初に説明することにした。

続いて、アドナイ館というケアハウスで生活している高齢者の一人住まいの居室の様子を写したOHPを見てもらい、その感想を書いてもらう。ここでは、生きがいや趣味を持って生活しており、その生きがいや趣味が住まいに表れている高齢者7名の住まいを中心に取り上げる。同一型の住まいでも、その人個人によって住まい方が違ってくるということに気付くことができ、また、自分らしい住まい方とは何か考えるきっかけになるものと考えた。ここで書いてもらう感想は、仮説②、③を検証するために用いる。

最後に、授業①で扱った大学生の一人住まいの平面図3つの中から生徒一人ひとりに1つ選んでもらい、そこでどう住まうかを平面計画してもらう。また、選んだ理由やどのように住みたいか、この住まいがこうだったらいいということも書いてもらう。ここでは、実際大学生が生活している住まいを使うことで現実的に生徒が考えられ、住まいに対して主体的に関わっていかうとするのではないかと考えた。

家庭一般学習指導案（略案）

指導者 増田香織

1、日時 平成10年9月3日 木曜日 第3時（207HR）／第4時（203HR）

2、学級 207HR／203HR

3、題材名 自分らしい住まい方 ー個人的生活空間に注目してー

4、本時の目標

- ・近い将来である大学生の1人住まいの様子を知ること、住まいに興味・関心を持つ。

5、本時の学習過程

時間	生徒の活動	教師の働きかけ・支援	評価について
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート調査を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート調査、ワークシートを配布する。 	
10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 将来一人暮らしをしたいと思っているか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手させる。 	<関心・意欲態度> ・自分なりに予想がたてられているか。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。（予想） 	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡大学に通う場合を想定させる。 ・発表させる。 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。（実態） 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想したことを中心に、大学生の1人住まいの現状を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家賃 ・広さ、収納スペース ・自室にある家具、電化製品 ・決める際重視したこと ・周囲の環境 ・居室の様式、設備 ・掃除の回数 </div>	
10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分だったらどのように家具など（最低限）を配置するか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の1人住まいの部屋の平面図を配布する。 	<関心・意欲態度> ・意欲をもって作業しているか。 <技能> ・人体寸法への配慮などを考え家具の配置が出来るか
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに作業する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ間取りでも人によって家具の配置が変わってくることや部屋の感じが変わってくことに気づかせる。 ・次の時間でやる平面計画に入りやすくするため、1人ひとりが作業出来ているか確認する。・発表させる。 	
20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> この部屋はどんな平面図なのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRを見せる。（大学生の1人住まいの様子） 	
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して印象に残ったことや、住まいへの関心に影響を与えたことなどを中心に感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図を立体的に考えさせる。 ・ワークシートなど提出させる。 ・次時の予定を報告する。 	

家庭一般学習指導案（略案）

指導者 増田香織

- 1、日時 平成10年9月10日 木曜日 第3時（203HR）
平成10年9月11日 金曜日 第5時（207HR）
- 2、学級 203HR／207HR
- 3、題材名 自分らしい住まい方 —個人的生活空間に注目して—

4、本時の目標

- ・前時の大学生の一人住まいと空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間として、ケアハウスで生活している高齢者の一人住まい（特に、自分の生きがいや趣味などが住まいに表れている住まい）の様子を何例かOHPで見ることで、ほぼ同一の平面図の住まいでも、住まい手によって、住まい方が違ってくることを知る。また、高齢者の生活や趣味などを理解する。
- ・近い将来である大学生の一人住まいの住まい方について計画することで、住まいに主体的に関わろうとする。

5、本時の学習過程

時間	生徒の活動	教師の働きかけ・支援	評価について
30分	<ul style="list-style-type: none"> ●ケアハウスの概要を知る。 ・資料①を見る。 ●ケアハウスに住んでいる1人暮らしの高齢者の居室の様子を見る。 ・資料②、OHPを見る。 ●感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料①、②を配布する。 ●ケアハウスについて簡単に説明する。 ●ケアハウスで生活している高齢者の一人住まいの様子をOHPで見せる。 ・自分の生きがいや趣味、生活が住まいに反映している例を中心に見せる。 	<p><関心・意欲・態度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来である大学生の住まい方だけでなく異世代である高齢者の住まい方にも関心を持てるか。
35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どのような住まい方をしたいか考えてみよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料④を見る。 ●前回の授業で扱った平面図A, B, Cの中から1つ選び住まい方を考える。選んだ理由やどう住みたいかなども書き、また、家具などに色を入れる。 ・資料⑤、⑥を見る。 ・平面図A, B, C, のいずれかに住まい方を書く。（展開図に） 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料③、④、⑤、⑥を配布する。 ●静岡大学寮の様子を説明する。（寮に住みたいという生徒がいたので） ●展開図の書き方などを説明する。 ・平面図A, B, Cのプリントのいずれかを配布する。 ・前回の授業で行った家具の配置がしっかりとできていなかった生徒を中心に机間指導する。 	<p><関心・意欲・態度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に作業しているか。 <p><創意工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用目的や機能に応じた室内装飾と美化の工夫をしているか。 <p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体寸法への配慮などを考え家具の配置ができてきているか <p><知識・理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生活していく場所として考えているか

第 2 節 授業の実施

1. 実施準備

授業実践実施の際に準備した、資料及びワークシート等は以下の通りである。

【1. 大学生の1人住まいの様子」授業①】

●ワークシート1-1 静岡大学生の1人住まいの実態

家賃、居室の広さ、家具、電化製品、下宿を決める際に重視したことについての学習者の予想と静岡大学生の実態を書き込むため作成した。また、授業の感想を書く欄も設けた。

静岡大学生の1人住まいの実態については、同研究室4年生の園田友香が行った静岡大学教育学部1、2年生107名に対してのアンケート調査にもとづいている。

●資料1-1 静岡大学生（女子）の1人住まいの部屋の平面図

居室に自分なりの工夫がなされていると授業者が考えた、静岡大学教育学部4年生女子6人の一人住まいを調査し、それぞれの平面図（A～F）を作成した。特にほぼ同じ間取りである住まいで、その住まい方が異なるものを意図的に選んだ。また、この6人の一人住まいの様子をVTRに記録した。この平面図は、VTR視聴時にも見てもらい、平面図から空間を想像する力、あるいは空間から平面図を考える力を学習者につけることを目的に作成した。

●ワークシート1-2 家具を配置してみよう

資料①の平面図Dを拡大し、そこに必要だと考える家具を学習者に配置してもらう。これは、同じ間取りでも、家具の配置の仕方は人それぞれであり、家具の配置で、部屋の雰囲気が変わってくることを実感してもらうこと、また、授業②に「自分らしい住まい方」を考えてもらうのだが、その作業に入りやすいようにすることを目的に作成した。

●VTR 静岡大学生（女子）の1人住まいの部屋の様子を記録したVTR

居室に自分なりの工夫がなされていると授業者が考えた、静岡大学教育学部4年生女子6人の一人住まいを調査し、その部屋の様子や、大学からの距離、周囲の環境、入居する際重視したこと、家賃、居室の広さ、工夫している点、不便な点についてのインタビューを記録したVTRを作成した。このVTRを視聴することで、大学生の一人住まいに、より関心を高めるとともに、実態を知ってもらうために作成した。

●その他

- ・静岡大学生（女子）の1人住まいの部屋の平面図BとDを拡大したもの。（板書用）
- ・ワークシート②を拡大したもの。（何人かの生徒に、黒板で家具の配置をしてもらうため。）
- ・「家賃」、「居室の広さ」、「家具」、「電化製品」、「下宿を決める際に重視したこと」、以上を書いた画用紙。（板書用）

【「2. 高齢者の1人住まいの様子」授業②】

●資料2-1 ケアハウスについて

事前調査でケアハウスのことを大多数の生徒が知らないということがわかった。そのため、ケアハウスの概要について説明するための資料を作成した。この資料は、シニアライフ情報センター編、「最新ケアハウス情報」（1995年）の「高齢者向け施設」の表と、ケアハウスアドナイ館の入居案内、働福社開発研究編の「新ケアハウス入門」（1993年）をもとに作成した。また、高齢者の一人住まいの様子を見た感想を書く欄を設けた。

●資料 2 - 2 ケアハウス（アドナイ館）の一人用居室の平面図

OHPでも一人用居室の平面図を提示するが、1例のみ参考資料として配付する。

●OHPシート ケアハウス（アドナイ館）で生活している高齢者の一人用居室の住まいの様子を写した写真と、その平面図を書いたOHPシート（34枚）

佐藤由紀「「装いのある暮らし」の実現に向けて－単身高齢者を中心として－」1996年度卒業論文の第2章第4節「住まい方調査の分析と考察」から、特に自分の生きがいや趣味が住まいに表れている高齢者の一人用居室を7例選択し、その様子を撮った写真と居室の平面図を中心にOHPシートを作成した。

住まい方の説明とともに、居室の様子やその平面図をOHPでみることで、高齢者の一人住まいの実態を知ってもらうために作成した。

【「3. 自分らしい住まい方」授業②】

●資料 3 - 1

大学生の一人住まいにおいて、自分がどう住みたいかを平面計画するにあたっての参考資料として家庭科教科書から抜粋した。以下はその内容である。

- ・「室内整備の計画」、「図50 インテリア空間の構成要素」（伊藤セツ、「生活技術1 新しいくらしのデザイン」、実教出版、平成5年検定済、P119）
- ・「図18 インテリアを構成するもの」、「図23 じゅうたんの敷き方」（伊藤央子、「生活一般」、教育図書、平成5年検定済、P119、P102）
- ・「必要な空間の検討」、「4 図人体寸法の比率」、「5 図生活空間と動作に必要な広さ」（鈴木寿雄、「技術・家庭下」、開隆堂、平成5年検定済、P136）
- ・「表3 室内の色彩の使い方」（伊藤セツ、「家庭一般 新しい家庭の創造をもとめて」、実教出版、平成5年検定済、P195）
- ・「表4 色の組み合わせと感じ」（伊藤央子、「生活技術」、教育図書、平成5年検定済、P181）

●資料 3 - 2 部屋を選ぶ時のチェックポイント

大学生の一人住まいにおいて、自分がどう住みたいかを平面計画するにあたっての参考資料として、静岡大学生生活協同組合が編集・発行した「大学入学までのガイドブック '95」の資料PP8-10をもとに作成した。

●資料 3 - 3 A, B, Cから1つ住みたいと思うものを選び、住まい方を考えてみよう
授業①で使用した資料1-1から、間取りなどが異なっている3つの平面図を筆者が選択し、学習者にはこの3つの間取りから1つを選んで、平面計画をしてもらう。

●資料 3 - 4 私はこう住みたいの例（B）

どのように平面計画をするかの例を示した。

●ワークシート 3 - 1 私はこう住みたい A

資料 3 - 3、Aの平面図を拡大したもの。ここに、住まい方を計画してもらう。

●ワークシート 3 - 2 私はこう住みたい B

資料 3 - 3、Bの平面図を拡大したもの。ここに、住まい方を計画してもらう。

●ワークシート 3 - 3 私はこう住みたい C

資料 3 - 3、Cの平面図を拡大したもの。ここに、住まい方を計画してもらう。

2. 授業実践

(1) 授業実践の過程

本授業実践では、同じ学習指導案で2クラス実施する。そのため、各クラスの生徒の実態に応じて修正を加えていく必要がある。また、事前調査と授業①は、207HR、203HRとも平成10年9月3日、授業②は、203HRが平成10年9月10日、207HRが平成10年9月11日に実施するため、授業②については事前調査の結果を踏まえ、学習内容や方法を修正して行くものとする。

ここでは、指導案や、先に実施した授業に対して（授業①では207HR、授業②では203HR）学習内容や方法に修正を加えた部分について述べていくこととする。

授業①では、先に実施した207HRで、本時の授業目的を言わずに入ってしまったこと、大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴しているとき、授業者の説明とVTRでのインタビューの声が重なり、どちらも聞き取りにくかったことについて改善した。つまり、203HRでは、授業者の自己紹介とともに授業実践の目的を言い、VTR視聴時には、VTRを一時停止にした状態で補足説明をした。また、207HRでは、大学生の一人住まいに家具を配置する作業について、5分程しか時間がとれず、作業が終わっていない生徒がVTR視聴時に作業を続けていた。そこで、203HRでは、10分程作業時間をとってみた。

事前調査で「ケアハウスという言葉聞いたことがあるか」という質問に「聞いたことがある」と答えた生徒は81名中12名のみで、その12名にケアハウスについて知っていることを記入してもらったのだが、正しく認識している生徒は1名のみであった。授業②では、ケアハウスで生活している高齢者の一人住まいについて学習するため、授業の導入で、ケアハウスについての資料を用意し、詳しく説明することにした。また、先に実施した203HRでは、授業者が資料3-3の誤り（自分がどう住まうかについて考えてもらう学習活動で、生徒に選択してもらう大学生の住まい3つのうち2つに関して、平面図とその説明が入れかわっていた）に気付くのが遅かったため、訂正に時間をとられてしまった。207HRでは、あらかじめその誤りを生徒に訂正してもらったため、203HRより「自分らしい住まい方」について考える時間を少しだけではあるが多とることができた。

授業実践の実施は以下の通りである。

【授業① 207HR】

日時	平成10年9月3日 第3時
場所	視聴覚室
授業者	増田香織
観察者	小川裕子助教授、小杉よし子教諭、國田友香、横山香
記録者	小川裕子助教授、國田友香、横山香
生徒数	41名

【授業① 203HR】

日時	平成10年9月3日 第4時
場所	視聴覚室
授業者	増田香織
観察者	小杉よし子教諭、園田友香、横山香
記録者	園田友香、横山香
生徒数	41名中、1名欠席で40名

【授業② 203HR】

日時	平成10年9月10日 第3時
場所	視聴覚室
授業者	増田香織
観察者	小川裕子助教授、小杉よし子教諭、常勤講師、園田友香、横山香
記録者	小川裕子助教授、園田友香、横山香
生徒数	41名中、3名欠席で38名

【授業③ 207HR】

日時	平成10年9月11日 第5時
場所	視聴覚室
授業者	増田香織
観察者	小川裕子助教授、小杉よし子教諭、園田友香、横山香
記録者	小川裕子助教授、園田友香、横山香
生徒数	41名中、2名欠席で39名

(2) 授業記録

授業記録を作成することで、授業者・学習者の発言や学習者の活動がどのような状況で行われていたのか、また、授業全体の流れがどのようなものであったのかを授業後において明確に知ることができる。

ここでは、授業実施に際して用意したVTRとカメラでの記録をもとに、授業①207HR、授業①203HR、授業②203HR、授業②207HRのそれぞれの授業での様子がわかるように授業記録を作成する。

授業記録記入上の諸注意

	内 容
時間	授業開始の挨拶から終わりの挨拶までを計測する。授業①では、2クラスとも授業の始めの10分間を事前調査にあてたが、その時間も授業時間に含めた。1コマは65分である。
発言者	T (授業者の発言) ----- C (生徒の発言) C。 (多数の生徒)
発言番号	発言番号は、授業者の発言と生徒の発言をそれぞれ別々の通し番号にする。また、つぶやきや独り言等は、基本的に番号を付けないが、その発言が他の多くの生徒の耳に入り、発言と同じ性格を持つときは番号を付ける。
その他	*印は、注記を表す。これは、授業者の行為の意味などの説明、授業状況の把握のための補足説明とする。

* 207HR授業①では、VTR視聴時に授業者の説明とVTRでのインタビューが重なっており、聞き取りにくいところが多くあったので、VTRのインタビューの内容については、203HR授業①の授業記録に詳しく記録した。

60	T 3 3	<p>うですか。」「大学生が近くに少ないのでとても静かです。」周囲の環境はまあ、みんなと同じくらい。ここは、1階の入り口ね。階段あるでしょ、その階段から通っていき。1階から、登っていきます。「いきなり階段なんですねえ。」「そうなんです。」「階段があるってことは、この下が駐車場ってことですよえ。さっきあった。」「そうです。」「洗濯ものとかも干せますねえ、あそこだ。」「はい、そうですね。」「車賃は、おいくらですか。」「4万8千円です。」「ここお勝手ですよえ。」「はい。」「5万円まで、家賃がいかに安く、エアコンがあることです。」「工夫している点などありますか。」「家賃が4万8千円ね。この、面白い、こにねミシン、趣味が洋装で、「これは、何ですか。」「これは人体で、えーと風とか作るのが趣味で」「このミシンの横にあるケースは何ですか。」「これは、スパイス入れなんですけれども、私はこのなかにボビンなどを入れて、「ごめんね、時間がないので飛ばします。ここ風呂がすごい広い。」「かなり広いですねえ。」「はい、そうなんです。」「</p> <p>じゃあ、最後。ちょっと時間がないので、ワークシート1を出してください。それで、授業を通して印象に残ったことや、住まいへの関心に興味を与えたことなどを中心に感想を書いてください。で、ちょっと後は流しておくので、書きながら見てくれてもいいです。「ネコが穴山いることと、コンビニやバス停が近いので便利です。」「本当に静かですねえ。」「はい。」「1人住みの部屋を選んだときに重視したことは何ですか。」「まず、浴槽とトイレがセパレートだったこと、あと、大学から少し離れていること、あと、部屋が2階にあることと、部屋の大きさが8畳という十分な大きさだったことと、最後に直から富士山が見えること。」「いつもはこの窓からみえるんですね。今日はちょっと。」「広さはどのくらいですか。」「部屋のほうは8畳です。」「すっきりしていますねえ。」「ビデオ見ながら書くことビデオのことははっきりになっちゃうけど、このビデオ見る前のことも書いてください。印象に残っていること。」「工夫している点がありますか。」「小物を色々なところに配置して飾るっていうことと、あと、観葉植物を部屋に置いているということです。」「ここがガラスで結構明るいんですねえ。キッチンの方が。」「はい。」「トイレです。」「お風呂です。」「</p> <p>ちょっと、書きながらでいいから聞いてください。今度の時間、2年8組では、103の3コマ目、もう一度授業をやらせていただきます。それで、その時の後半、授業の後半に、1人暮らしをするとしたらどういう住み方をしたいかを考えてもらい、今日は家具だけだったんですけど、配置しただけだったんですけども、色を考えてたり、あと装飾品とかも、考えてもらいます。それを、平面図だけじゃなくて、平面図、上からみた図と部屋のなかから横をみた図、わかるかな、展開図みたいな、そういう感じで今度書いてもらうので、色鉛筆を必ず持ってきてください。10日の8コマ目、お願いします。(※チャイムが鳴る。)ちょっと、2分延長させてください。ごめんね、10日の8コマめ、それで、今度の授業までにいろいろな雑誌をみたり、あと家具どういのがあるかなっていうのを考えておくと、今度の時間すんなり入ると思います。じゃあ、終わりにします。それで提出してもらうのは、事前アンケート、事前調査と、ワークシート1と3、ってことは2以外ワークシート2以外、すべて提出してもらいます。いいですか。まだ、ちゃんと書いてない人は、後でいいので、後で提出してください。(※終わりの挨拶をする。)</p>
63	T 3 4	
65		

授業① 207HR 授業記録

時間	発言者	授業の流れ
00	T1	(※始まりの挨拶をする。) 増田香織と申します。卒業論文で家庭科の住生活領域の研究をします。それで、今回2年1組のみなさま、みんなに2コマもらって授業をやらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。さっそくですが、これから10分間ちょっと、この事前アンケートを、(※選別して来た生徒が入ってきたため、笑いが起こる。)今からこれを配りますので、10分間でやってください。わからないことがあったらちょっと、聞いてください。
01	C1	(※事前調査と資料を配る。) あまり考えないで、やってください。あまったら、後ろに置いておいてください。分からない人います?べつに、評価とかぜんぜん関係ありませんから思ったとおりにやってください。10分くらいでできますか。わからない内容があったら手を上げてください。いきます。(※机間巡視する。)みんな、水泳終わったあとで疲れているね。でも、頑張ってください。ビデオ、撮っていますよ。
	T2	撮っているの?(ピースをします。) はい、やってください。アンケート。時間が迫ってきます。今日は、盛り沢山あるので、この時計で、後15分までにやってください。お願いします。頑張ってください。あと、8分で、あまり、考えないで思ったことを、②番思い出せなかったら思い出せただけ書いてください。それで、ちょっと時間かかってしまうと思うので、小学校で学んだこと、中学校で学んだことというところは、思い出したことでいいです。最後まで、静かに聞いてください。授業の最後に回収します。なくさないで、置いておいてください。静かで、聞きましょう。最後まで、静かに聞いてください。
09	T3	ちょっと、書いた人もいます。いったんこっちは見て下さい。ワークシート3枚配りました。この1番最初の、静岡大学生の一人住まいの真題というワークシートに1と書いてください。で、2番はこの平面図がいっぱい書いてある静岡大学生(女子の一人住まいの部屋の平面図)これが、2です。で、残り3です。ちょっと、書いた人、手を挙げて下さい。アンケート。(※2、3人だけ。)まだだね。はい。ね、2分くらいでできなそうなら手を挙げて下さい。O.K?じゃあ、15分になったら切ります。(※ワークシートの番号が付けられていない人がいた。)ごめんね、さっき早口でいったので分からない人がいたので、もう一度言います。(中略)あと、20秒で終わります。もし、できなかった人は、授業の合間にやってください。最後に、回収します。次は、お昼なので、時間どおり終わるように頑張ります。じゃあ、終わりにしてください。最後に、後で回収するので、箱のほうに置いておいてください。まだやっていない人は、授業の合間にやってください。ありがとうございます。
13	T4	14番の、アンケートの14番でお聞きしたんですけども、将来一人暮らしをしてみたい人ちょっと手を挙げてみて、あ、ほとんどだね。予想どおり。私も高校のとき一人暮らしをしたくて、私は出身が長野なのだけれど、今静岡で一人暮らしをしています。今日は、静岡大学生の一人住まいの真題ということで静岡大学の107人にアンケートを取ってきました。まず、みなさんに家賃と、ワークシートの1を出してください。広さと、家具、電化製品、と後なんだったか、下宿を決める際に重視したことは何か(以上を書いた両用紙を黒板に貼る)ということとをまず、予想をたててもらいたいと思います。ワークシートに予想をたててみてください。家賃はどのくらいかな?どうだろうね。予想してみよう。みんな、静岡大学なんて行きたくない、と思っているでしょ?私がここの大学生だから、静岡大学生になったつもりで考えてみてください。わからなかったら、?で、いいですよ。忙しいけど、20分までにしてくれるかな?(※机間巡視する。)わからないね。私も大学入るまで、まったく家賃がいくらかなんて分からなかった。あ、ごめん、忘れた、すいません。この、予想のところ、どのような家具、電化製品があるかな、というところ欄が小さいので、家具のほうを右側の下に書いてください。相談しなくても、自分が思ったとおりでいいよ。一つお願いがあります。真題を発表したあと予想を度えなくていいか、書き直さないでください。ぜんぜん、恥ずかしくないから、約外なこと書いても。まだ、もうちょっと時間欲しいなと言う人は手を挙げてください。いいんですか。いい?もうちょっと時間欲しい人手を挙げて。はい。じゃあ、後もう1、2分をお願いします。
18	T5	じゃ、そろそろ、こっちは向いてください。注目してください。も、予想はそこまで。家賃の予想だれかに、言ってもらいます。自信ある人?じゃあ、こっから当てます。聞める漢字の人当てます。川上君、いくら?
	C2	5万くらい。(※板書していく。)
	T6	5万くらい。3人くらいに聞いてみようかな。じゃあ、今度女の子、木田さん。
	C3	7万くらい。
19	T7	7万くらい。はい。時間がないから、2人にします。今度、広さ、何畳あるかな?自信ある人?いないね。じゃあ、古田君。
	C4	5万円。
20	T8	(※笑いが起こる) あ、ごめんなさい。広さだよ。広さは?何畳ぐらいかな?いいよ、自分が思ったのでいいよ。恥ずかしくないよ。
	C5	8畳。
	T9	8畳。はい。居室だけね、これ。じゃあ、今度滝沢さん。お願いします。
	C6	10畳。
	T10	はい。じゃあ、家具。家具、思いついた人、一人でいいや、時間がないので、では、鳥井君。誰かな。はい。お願いします。全部言ってください。
21	C7	コタツ、机、椅子。
	T11	書いたの全部書いて。
	C8	終わりです。
		(※笑いが起こる。)
	T12	ありがとうございます。いいよ。じゃあ、もう一人、鈴木さんお願いします。家具のほうで付け出しがあったら、お願いします。
	C9	本棚、たんす、鏡、ベッド。
	T13	ありがとうございます。他にあるよという人いる?じゃあ、次、電化製品、戸塚君お願いします。
	C10	エアコン。
	T14	どんだん言ってる。
	C11	ありません。
	T15	ありがとうございます。じゃあ、早川さん。
23	C12	電子レンジ、テレビ、冷蔵庫。
	T16	ごめん字が小さくて後ろの人見えないと思うから良く聞き取ってね。じゃあ、今度下宿をする際に重視したことを書いた人いるかな?こっから当てます。えーと、永井君。
	C13	家賃。広さ。交通手段。
24	T17	ありがとうございます。交通手段って例えば、どういうこと。
	C14	駅までとか、学校まで。
	T18	ありがとうございます。その他にある人いる?
	C15	無何年。
	T19	書いてこれでもいいですよええ。自信ないです。
	Cm	いいです。(※笑いが起こる。)
25	T20	あーじゃあ、調べたアンケート結果を発表します。真題ですよ。家賃が、平均してなんとこの人正解、正解も何もないけど、6万円です。書いていて、平均すると6万円、4万5千円~6万円までに集中していました。アンケート調査では、で、今度広さ。6畳と8畳半くらいでした。中には10畳とかの人いるから、10畳でも間違っているわけじゃないよ。でね、家具は、半分以上持っている人を書きます。まず、本棚は、80%くらいの人が持っていました。やっぱり、大学生だね。みんなも自分の部屋に本棚ある?本棚でないかな?次はこたつ、あるいはテーブル、次、ベッド、学習机、最後に食器棚、食器棚、気づかなかったね。一人暮らしすると自炊をしなくちゃいけないね。しないひともちろんいるけど。これが、半分以上ありました。ごめん、たんすも。後は、まあ20%くらいなのを書きません。たんすは、整理だんすとか、洋服掛け、洋服だんすのいずれかを持っていました。次、電化製品これも半分以上だけを書きますね。テレビ、コタツ、あるいは、テーブル(※笑いが起こる。)間違えた。ありがとうございます。ごめんなさい。間違えました。ちょっと緊張しています。テレビ、冷蔵庫、ステレオ、掃除機、掃除機も必要だね、エアコン、ビデオ、一人暮らしは寂しいのでけっこうビデオ持っている人多いですよ。洗濯機、電子レンジ、以上です。書くことがいっぱいあって、たいへんだね。で、あとは、重視したことだね。一番は、大学までの距離でした。やっぱり、近いほうがいいもんね。見えるかな、下のほう。大丈夫かな。2位が家賃。そうだね。3位がえーと、トイレと浴室が別々にあるか。で、もう一個広さが4位。5位が断りささと、日当たり。以上です。本当は、もっと色々調べたのでみんなに報告したいんだけど時間がないので真題は、これだけにします。知りたい人は、あとで聞きに来て下さい。
32	T21	今度、ワークシートの2を出してください。忙しくてごめんね。でたかな。ちょっと、えんぴつ出して。Aの1階、バス、トイレ、洗濯機というところに共同と書き忘れてしまったので、共同で書いてください。いいかな。ここはね、自分の部屋に、部屋に、バス、トイレ、洗濯機がなくて、同じ建物のなかに住んでいる人で、バス、あ、浴室、トイレ、洗濯機をいっしょに使っていますという大学生

		<p>の部屋です。女子学生の部屋だけなんですけど、これは、ちょっと、Cを見てください。Cは、ロフト付き。ロフトってわかるかな。大丈夫。分らない人手を挙げて。(* 1、2名手を挙げる。) はい。ロフトというのはね、屋根裏部屋というのかな、屋根裏部屋みたいな感じで、同じ居室のほかに1段っていうのかな、後でビデオを見せるので、うまく言葉で説明できないので。じゃあ、次はB、Bはおもしろいよ。1階がね、駐車スペースになっていて、2階が居室になっているの。これ読めるかな。階段があるでしょ、1から階段を登ってきたところに居室があるおもしろいよね。見て分かると思うけど、BとD同じ間取りなの、窓の位置が違うだけ。(* BとDの部屋の拡大間取り図を黒板に貼る。) ちよと、これ見て、これ見にくいので自分の所を見てもらえればいいです。</p>
34	T22	<p>で、いいかな、ワークシート3を出して。本当に、超スピードで、やってもらいます。この家具を配置してみようで、この下にねベッドとかソファとかの大きさ書いてあるよね、これを参考にして、BとD間取りが一緒のだけれど置き方が違うとぜんぜん感じが違うの、で、自分でちよと住んだと仮定して、ここにあるだけじゃなくていいから、ここにあるの全部使わなくてもいい、例えば、ピアノはいらないから使わないとか、いい？自分で必要なと思うものをこのこの間取りのとうか平面図があるよね、ここに書いてください。2マスが1畳です。ちょっと書いてみて。色ペンで書いてもらえると嬉しいな。ある人は、赤か、青かで。ごめん、本当に時間がないうから後2分か3分ではばばっと。特別の・・・というか・・・林君で誰。林君だけはここにやってもらいます。(* ワークシート3にあるDの平面図の拡大図を黒板に貼る。) これせつかく作ったからやってほしいの。ごめんね。ここにきてこれがあるので(* 家具のマグネット) 貼ってください。もし、他に必要なものがあつたらこれで書いてください。(* マジックを渡す。)</p>
38	T23	<p>林君が終わったらみんなもできたおみなしてします。(* 机間指導する) あ、ごめん今時間ないから物差しで書かなくていいや。あ、そうだ、中断させてごめんね、この間取りだとねここね(* 平面図Dの居室に入る戸を示す。)、片開き戸になっているよね、片開き戸というのはこういうやつね(* 実際にある片開き戸を示す。)、ここにBは、食器棚置いているよね、置けなくなっちゃうから(* 平面図Dの居室に入る戸を示す。) ここにもし何か置きたいと考える人はここを引き戸と考えていいです。引き戸と言うのは、これです。(* 実際にある引き戸を示す。) がらから、で、今度引き戸になるとここにもものが置けますよね。ここにもものを置きたい人は、引き戸と考えて家具を置いてください。わかりますか。大丈夫？</p>
38	T24	<p>ありがとうございます。おつ、すごいね。(* 林君がすでにできていた。) どうか、これとみんな同じになった？同じ人いるかな。同じ人手を挙げて。みんな、やっぱり速くなるね。まねしちゃいけないよ、自分で考えて。じゃあ、これは終わりにします。今度も、忙しいよ。みんないっせいに後ろを向いてください。ビデオをみます。</p>
39	T25	<p>(* ワークシート2のA~Fの部屋や周囲の環境の様子と、そこに住んでいる学生に、周囲の環境について、入居する際重視したこと、家賃、工夫している点などをインタビューしたVTRを見てもらう。) これがAの部屋です。ワークシート2を見ながら・・・ 後ろの人、見えなかったら前に来ていいですよ。 これが、Aの図ね。バス、トイレ、洗濯機が共同のね。 後ろの人、聞こえる？ ここが、入り口、ここが、廊下・・・(* よく聞き取れない。) 2万8千円、安いね。 光って、見える？後ろの人。 みんな、見てる？後ろの人見ている？ 今は、トイレ、共同のお風呂。 これ、Bね。 かわいいでしょ、この部屋。 平面図わかるかな・・・(* よく聞き取れない。) 黒らし合わせてみて。 玄関入ったところにスイッチがあるから・・・(* よく聞き取れない。)</p>
42		<p>これが、Cのロフトがある家です。 ここちょっと、みていてね。居室のところに階段があつて、2段ベッドみたいだね。これが、ロフトです。 窓の位置について補足。(* よく聞き取れないところは、略。) これは、ユニットバスといつてお風呂とトイレが同じ所にあるの。あの、アメリカ、ホテルとか泊まるとこういうのあるね。</p>
46		<p>これは、D、BとD間取りがだいたい一緒です。 工夫している点。家具を木で全部統一しているところだつて。全部木だとなんかいい感じだよな。 で、Bね。 ここが駐車スペースです。ここが1階2階が居室です。 セパレートというのは、お風呂とトイレが別々ということです。 これ、トイレ、和式です。 洗い場広いね。 最後、Fです。</p>
61		<p>綺麗にしてもらいたいけど、汚いやだね、ガラスの戸だから宅急便の人とか来たらなにか見えちゃうね。 (* VTRと同時に話しているのでよく聞き取れない。)</p>
62	T26	<p>はい、以上です。机を動かしていると時間ないので・・・。ワークシート1を出してください。ワークシート1に授業の感想と書いてあるところありますね。そこに、今日授業を通して印象に残ったことや、住まいへの関心に影響を与えたことなどを中心に後5分で感想を書いてください。後5分じゃないね、後、4分。 みんなのお昼休みの時間の2分だけください。まだ、感想書けないよね</p>
63	T27	<p>書いた人手を挙げてください。(* 2、3人。) まだだね。 ちよといいかな。今度の時間、2年7組では、11日の5コマ目もう1度授業をやらせてもらいます。お願いします。それで、後半に1人暮らしをするとしたらどういう住み方をしたいかを考えてもらいます。今日やったのは、家具、電化製品の配置だけだったんですけども、今度は、そこに色を入れてもらったり後、装飾品あ、絵とかまあなんでもいいんですけども、そういうこともやってもらいます。それで、平面図じゃなくて、展開図といつて、上からみた図、と部屋のなかから様から見た図を書いてもらいます。で、今度の時間までに、いろんな雑誌とか見ておけばスムーズに行くかと思ひます。あと家具とかの大きさとかはかっておけばこの時間簡単に行けると思ひます。色鉛筆今度、必ず持ってきてください。11日の5コマ目、いい、色鉛筆お願いします。あと、雑誌とか持ってきてもいいです。で、授業終わったらアンケートの、アンケートとワークシート1と3だけ集めます。じゃあ、お願いします。(* ちよと、チャイムが鳴る。) 前を向いてください。 (* 終わりの挨拶をする。)</p>
63	T28	

しています。タンスの上や棚の上、壁面などには自分で作ったという手芸の作品を所決して飾っており、手芸用の材料や道具類は、テレビ前にある棚の上に積み重ねて置かれています。(※シート④)これがこの方が作った人形です。アンパンマンですね。この花も作ったそうです。折り紙と毛糸で。(※シート⑤)あと、このマリア像も毛糸で作ったそうです。(※シート⑥)さっき、テレビの手芸用の道具や材料類が積み重ねてあるというのは、これです。こんな感じで積み重ねています。手芸が多くなる材料を用いるために、それを収納するためのスペースの確保が必要になってくるためだから、手芸という生き甲斐を置くことによって生活が圧迫されているように思われます。けっこうごちゃごちゃしていますよんねえ。まあ、狭いということもあるかもしれませんが、本当に生き甲斐だけの部屋みたいな感じですね。

19 T12 今度は住まいの装飾について・・・(※バイクの音でよく聞こえない)あ、すいません。その前にごめんなさい。生き甲斐が友人と遊ぶことである、入居者についてちょっといいですか。(※シート⑦)居室に置かれている棚や整理箱などに布などをかけて目隠しをしています。これは、友人などが居室へ遊びにくることの多いと思われる入居者にとって、見えては困るものなど、例えば押し入れには入りたくない衣類などの視線を遮るための手段の1つであると考えられます。また、比較的家具は少なめで、居室内のゆとりの空間を広く確保している様子が伺えます。これも、友人などの接客において、居室部分を広く確保しておく必要からではないかと思われる。(※シート⑧)額や花、折り紙の小物類、人形、ハンカチなどその居室によって様々な装飾がなされていたり、(※シート⑨)あと、鉢植えなどが置かれています。このことから、入居者の住まいに対する積極的な関わりが読み取れるといえ、友人を居室に招くといった行為が、住まいの装いを防長しているのではないかと考えられます。友達を呼ぶことによって、部屋を飾ろうとか、あと見られたくないものをこうやって、布で隠したりとか、友達と色々何かをやるために、居室の空間を、スペース空としていっているって言う例です。

21 T13 じゃあ、すいません。今度、装飾状況です。さっき言った・・・。(※シート⑩)これは、玄関に飾り棚が置かれ、その上に花や人形が飾られている様子です。これは扉です。玄関のところに飾り棚が設けられています。(※シート⑪)先程もありましたが、これ、トイレのなかです。広いトイレ内に棚をおき、その上に人形や作品を置き、個性のある落ち着いた空間にしています。こちら辺りにトイレがあるんですけども、ちょっと見えにくいですが、これがトイレです。ちょっとぜんぜん関係ないんですけど、これは何でしょうか。(※トイレ内のテスリを指す。)何のためにあるのでしょうか。分かる人?大学生のほうにはなかったよんねえ。テスリとか必要ないよんねえ。これがバリアフリーって言うよんね。段差だけじゃなくってテスリとかも・・・ついでに、ものとかを置かなければ車椅子でも使用できるよんにできています。このように、この住まい方は入居者の趣味を最大限にいかすために使い勝手考慮した上手な収納・整理あるいは住みこなしが実現されているといえます。

24 T14 で、今度は居室のなか。居室内装飾には、花や木、置物や小物を飾るという状況が多く見られます。また、ランプを置くなどする入居者もいました。(※シート⑫、⑬、⑭)これは、整理ダンスの上の人形ケースがおかれている様子です。大学生のにはこんなのなかったよんね。こういうふうに小物を置いたり生け花をしたり・・・こういうふうに花などを飾ったり(※シート⑮)こう言うふうに飾っています。ケアハウスの様子は以上で終わります。じゃあ、前をむいてください。じゃあ、カーテンを開けてください。ちょっと暗いね。(※電気を付ける。)

26 T15 じゃあ、資料1をもう1回出して下さい。表に授業の感想、これはOHPを見てももらいましたね。ケアハウスのその感想を自由に書いてください。今から5分程度取ります。この時分で30分くらいまでお願いします。後で、提出してもらいます。

27 T16 書いてる途中でごめんなさい。あの、今日色鉛筆を忘れちゃったという人、手を挙げて下さい。はい。ありがとうございます。書けた人は切り離しておいてください。後で、すぐ出せるように切り取り線から、で、飛ばさないようにしてください。そこに書いてある輪わかりますか。スノーレッツです。飛ばさないように気をつけてください。机のなかに入れておくといひですね。

29 T17 では、先に説明しちゃいますね。さっき机のなかに入れた資料を全て出して下さい。で、資料1はもう使わないので机の中に入れておいて結構です。飛ばさないように気をつけてください。資料4を出して下さい。この前ね、このクラスにはいたかな?寮に住みたいと言う生徒、寮に住みたいという人がいたので、あの、静岡大学生協の資料から、私が入学したときにいただいたものから、ちょっと色を探してきました。で、あのマージックでかこんであるところちょっと、見て下さい。静岡大学の寮は、1人あたり5畳で机とベッドがあるので、自由に使えるが、スペースが限られてくる。本当に狭いんですよ。4人部屋なんですよ。20畳の大きな部屋に4人で相部屋というのが基本です。でも、寮の魅力はなんといっても、家賃が安いということ。今回寮に入れようと思ったんですけども、寮の場合本当にスペースが狭くて、ベッドと机も、元からあるの今回は寮は、省きました。寮に住みたいという人がごめんなさい。

31 T18 じゃあ、いいですか。次は資料5を出して下さい。今度みんなに書いてもらうよ。資料5、5です。これです。切れていてよくわからないね。(※5という数字が切れていた。)この、A、B、Cから書いてあるやつね。みていない人いる。いいこれ出してね。資料5。かったるいなあーと思ってるかもしれないけど、はい頑張って、頑張ってください。お星前だから・・・。えーと、A、B、Cから1つ住みたいと思うものを選び住みたい方を考えてみましょうということ。みんなに考えてもらいます。で、今回は、コンセント、スイッチの位置は考えないようにします。普通だったらコンセント、スイッチの位置が決まっているので、だいたいテレビ、電化製品の置き場所が決まっちゃうんですが、それじゃあつまらないので、今回は気にしません。で、居室の床は、畳、床張りフロアリングのことです。あとカーペットを敷くかそのいずれかを選んでください。で、A、B、C、を今度選んでもらうんですけど、選んだ理由と、どう住みたいか、自分の生活を、どういう生活をするか、あとこうだったらこの部屋はもったいないのになあと言うことを文章で書いてください。箇条書きでも構いません。で、書ききれない場合は、裏に書いてください。色鉛筆を忘れちゃったと言う人がいるんですけども、もし、友達に借りれなかったら、色ぬらなくていいので、ここは何色と、言葉で書いてください。家具やカーテン、壁などにも色を入れてください。で、冷蔵庫は、だいたい流しの横に置くようになっていますが、まあ、居室に置きたいという人は置いてもいいけど、その理由とか書いてください。

32 T19 で、今度資料6。ちょっと例を書いてみました。資料6。裏です。これはBを書いてみました。あのこの文章は後で参考にしてください。で、壁がありますよね、こうやって開いた状態になっていますよん平面図が。この壁っていうのは、居室のなかからこうやって横から見た図、分らない人います。大丈夫。書けるかな。難しい。大丈夫。いいかな。例えば、これが(※黒板消し)タンスだとします。平面図っていうのは上から見た図だからこうなるよん。いい。でも、壁から見るとこうたっているから・・・。この図を見れば分かると思うけど、ピアノ見て、上から見るこうだけれど、横から見るこう、こんな感じ。あと本棚とか。そういうもの書いてもらいます。この展開図を書くことによって、家具の高さなどもわかるよん。だから今回こうやって書いてもらうことにしました。じゃあ、これを参考にしてください。

34 T20 で、また資料5にもどってください。で、そこに1畳の大きさとかちょっとわかりにくいと思うんですけど、これも参考にしてください。5坪が0.8マスです。この小さいマスが。さっそく、じゃあA、B、Cすべて配ってあるので、そこから自分が住みたいなあと思うもの、もし全部やだなあと思ったら、まだまだなと思うものを1つ選んでそこに書いてください。どのように展開図、この前家具の配置だけはやったのでだいたい書けるかな。さっそく、はじめてください。それで、資料8、4も配ったので、あの、もし参考にしたかったら見てください。いろいろのっているんで、で、家具の場合なんですけれども、全部新しく買わなくても、本当に実際に考えると、家にある家具とか1人暮らしするときそれを持って行って、それを使ったりもできるから、そういうことも考えて、4年間だけだから、あとの処理とか困るよん。そういうのも考えてやった方がためになるかもしれないよん。

35 T21 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

40 T22 あーごめんなさい、大きな間違えをしてしまいました。ごめん。(※机間指導する。)

42 T23 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

47 T28 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

53 T24 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

54 T25 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

56 T26 じゃあ、さっそく書いてみて下さい。分らない人がいたら手を挙げて下さい。いちおう、まわります。で、作業は12時5分まで、5分じゃあない4分までにして、全部できない、うーんたぶん4分までじゃあ書ききれないと思うので、うーん提出出来る人だけ提出してもらって、出来ない人は、来週までに自分でいいなと思うぐらいまで、こんなに細かくなくてもいいですかね、Bみたいにほんともっとおさっぱでもいいですよ。さっそく、はじめてください。まず選んでね。今、1人ずつまわっていく、時間があから、その時に感想を出してください。何か質問があったら言ってください。(※机間指導する。)

59	T 27	もう時間ないね。 ぎりぎりまでやるように、今ちょっと説明しちゃうね。もう1回言うけどこれできなかつたら、自分でもういいなと思うくらい、べつに評価とかじゃないから、そんなにというか・・・、ぜんぜん関係ないから、だから自分でこういうふうにしたいなあっていうのが、書いたら17日木曜日の小杉先生の授業のときに提出してください。それまでにやって来ててください。できるだけ、色まで入れてきて欲しいんですけども。今ちょっと分からないという人、今のうちに聞いておいてください。たぶんもう1回まわれないと思うので、恥ずかしがらずに。今、聞いておかないと・・・。大丈夫？何でもいいよ。くだらないことでもいいよ。大丈夫？名前も書いて、理由とかも大丈夫、書き方わかる？どういう生活をしたとかさ。高齢者のみで廊らまなかつた？イメージ。大学生の住まい方だけだと、ありきたりだしね。もっと、よく考えてみて、じゃあ、12じ5分ぎりぎりまでやりますね。で、今日提出出来る人は、終わったら、ここに提出してってください。
61	T 28	清水君もう、ほとんどできちゃったて、あと色を塗るだけだつて。見えなと思うけど(みんなに見せる)いろいろ工夫してあるよ。今ね、コタツ机とかあと押し入れとか、本棚とか書くんですかと言われたんですけども、絵でみてわかるなら書かなくていいよ。絵がみても分かるなら。ぱっと見て分からなかつたら、添え書きを書いてくれるとうれしいな。
63	T 29	今、いい質問してくれました。Bのこれってなんですかって聞かれたんですよ。壁がありますよね、これは、あの、木なんです。何て名前か忘れちゃった、今日聞いたんですけど忘れちゃった、すいません。ここにあることによって画びょうとかがさせます。だから、ここに画びょうとかさして、絵とか飾ったりできます。が、今回はそんなことあんまり考えなくていいです。もうすべて画びょうさして、OKにしておきます。他の居室、廊下も普通はなんか、画びょうをささないでくださいというところもあるんですが。じゃあ、チャイムが鳴ったら終わりにしますね。
65	T 30	あっおわちゃった。出来た人手を挙げて。いないよねえ。こんなんじゃできないよね。ごめんね、私がワークシートを昨日夜中にあせてつづったもので、迷惑かけちゃった。じゃあ、宿題になって申し訳ないんですが、まあ、やだかつたら、こんなのやってられるかと戻ったら、まあ、しょうがないけど、できるだけ色を入れて17日の木曜日小杉先生の授業のときに提出してください。おねがいします。2コマどうもありがとうございました。(＊あいさつをする。)

時間	発言者	授業の流れ
00	T1	(*始めのあいさつをする。)(*資料を配る。)一人6部ね、6部っていうか6枚ね。1枚だけ机の上に残して、あとは、机の中に入れておいてください。あとで、使うので。1枚目、一番上、その順番になっているから、一番上そうそう。資料1だけ出して残して、後は机のなかにしまってください。1枚足りない。園田さんこっから持っていくください。お願ひします。前回は、近い将来である大学生の1人住まいについて勉強しました。覚えていますか。今日は、同じ1人住まいは1人住まいでも、みんなとは世代が離れている、高齢者の1人住まいについてやりたいと思います。それで、この前も言ったんですが、授業の後半には、みんなにも、一人暮らしをするとしたら、どう住みたいかを考えてみたいと思います。
01		(*ここで、チャイムが鳴る。*)じゃあさっそく、資料1を見てください。事前調査を見ますと、ケアハウスについて知っている人が少なかったんで、まず、ケアハウスというものを説明します。この太神をちょっとみてみてください。ケアハウスというのは、住宅政策として厚生省が平成元年から制度を創設しました。これ、ゴールドプランのことですね。で、概要としては、軽費老人ホームの新しいタイプで、より居住性を高めたもの、給食、入浴、緊急時対応のサービスが受けられる。自治体の在宅福祉サービスが利用できる。寝たきり状態になると退去しなくては、しなければなりません。で、居住性を高めたものとして、ちょっとだとしてください。ケアハウスは、あくまでも住宅として位置づけられ、入居者が個人の自立性を尊重しつつ、個人個人にあった自立生活を維持・継続できる場、でそのためケアハウスは、個室で、内部の設備は住宅としての機能に重点を置きながら、車椅子での移動がしやすい構造となっています。で、サービスについては後で、兵衛においでください。で、住宅と福祉の機能を併せ持った、個人の自立性を尊重するケア付き住宅と言います。で、入居資格、利用する人は、60歳以上、但し夫婦の場合は一方が60歳以下でもOKです。で、②ちょっと進んでください。高齢者のため独立した生活への不安、(自炊ができない程度の身体機能の低下等)があり、家族の援助が受けられない方が入居します。で、自炊ができない程度と言うのは、例えば、身体機能が低下し、多少遠くあるいは歩行器具や車椅子を使用しているが、ホームヘルパー等による家事援助や入浴などの一部身辺介助を受けることで自立した生活を送れる人、高齢や健康等から一人暮らしや高齢者夫婦のみの生活に不安をかかえる人、比較的身体的には自立しているものの、家事経験などがなく家事能力がない人がここに入っています。で、利用料は、ちょっと見ておいてください。だいたいこれで、ケアハウスのことわかりましたか。こっちは、例えば、老人、えーと特別養護老人ホームとか、たぶん知っていると思うんですけど、ここは要介護者、が入るところです。ケアハウスは、こんな感じですよ。で、今日は高齢者の1人住まいについて、勉強します。それで、ケアハウス、アドナイ館というケアハウスの例の、1人住まいの様子をOHPで見てもらいたいと思うので、後ろを向いてください。
05	T2	で、横の人噂聞めていただけますか。カーテンを。 (*OHPシートは全部で、34枚使用した。*)(*シート①) えーと、ここはJR、いいですか見てください。JR浜松駅からバスで約40分のところにある、アドナイ館というケアハウスです。で、この居室は全館南向きです。それで、2人居室、これは、殆どが夫婦なんでもけれども、2人居室は4室。1人居室は42室。で、この1人居室というのは、この前見ていただいた大学生のワンルームマンションと広さは同じくらいです。それで、設備としては、1部屋ごとに、キッチンとトイレがあります。あ、資料1の裏にちょっと例が書いてあるのを見てください。浴室はありませんが、各フロアに一人用の浴室ありまた、共同浴室があります。ほとんどの方が、共同浴室を利用されているようです。
06	T3	(*シート②) それであの、今度Dア。こっち、今度OHP見てください。居室のドアは、車椅子でも開けられるような引き戸になっています。
	T4	じゃあ、今度、1人住まいの様子を紹介します。
	T5	(*シート③) この住まいは、82歳の元幼稚園の園長さんであった、女性の住まいです。このかたは、陶芸や押し花、手芸、料理など非常に多くの趣味を持っており、快活で話好きな人です。玄関には、大きな花瓶に非常に多くの花が生けられています。さらに、玄関に入ると、すぐ横には飾り棚が置かれており、この上には自分で作った毛糸の人形などが乗せられています。これが、その人形です。(*シート④、⑤) 居室内に目をやると、ベッドを窓際に平行に置くことで、日中生活する空間を確保しており、完全に就寝のゾーンと日中の行為ゾーンとが、分離されている様子がうかがえます。またこの人は、足の状態がよくないことから、これまでの起居様式(床座)を、椅子・床折畳型、椅子と床にすわるように変えたようですが、机椅子を壁面に押しやることで、居室中央部においては床座を展開するといった生活が置かれており、椅子座の部分と床座の部分とが上手に配置されています。居室内部は非常に整理が行き届いており、棚の上には人形が置かれていたり、その壁面には自分で作ったという押し花の額が飾られています。(*シート⑥) これに押し花の額です。またベッド近くには手芸道具ばかりが収納されている専用の棚が置かれていたり、トイレ内部には押し花の乾輪に用いるタッパーなどが収納された籠や押し花の作品が飾られるなどの工夫がみられます。(*シート⑦、⑧) これトイレのなかなです。トイレ、非常に広いんですよ。車椅子でも生活できるようにトイレは広くなっています。このように、あ、これも、この方が作った、面白いですねこれ。このように、この住まい方は、入居者の趣味を最大限に生かすために、使い勝手を考慮した上手な収納整理あるいは住みこなしが実現されていると言えます。
08	T6	じゃあ、次逢う方を紹介いたします。この住まいは77歳の女性の住まいです。この方は、色々な方と交流するのが好きであると話してくれたとおり、非常に話好きで積極的な明るい人です。元中学校の家庭科の教師だったそうです。玄関には飾り棚が置かれ、上に花瓶がのせられており、その棚には居室の置くことができない本棚が置かれていることから、玄関の狭いおよび、狭い居室空間をいかに住みこなすかといった工夫がみられます。また、玄関と居室の境にはカーテンをかけることで、プライバシーが保たれており、その付近には冬場使用するであろうと思われるコタツが立て掛けてあります。このように、普段使用しないものを邪魔にならない場所へと移動させることで居室を整理しているのだらうと思われまます。さらに、押し入れの扉をアコーディオンカーテンにかえることで、ベッドを押し入れ前に平行に寄せて並べ、家具を全て壁面に沿って置くことで、居室空間を広く確保している様子がうかがえます。(*シート⑨、⑩) これにベッドです。前に紹介した、入居者と同様、足・腰の状態が悪化したことから、最近初と椅子の導入に踏み切ったそうです。窓際に机と椅子を配置し、趣味である短歌や手芸を行うときには、その都度必要な書物や道具類を選び、ここで様々な活動を行っているそうです。このように秩序、秩序付けされた住まい方が入居者の意欲としたい暮らしに密着、密着に関わっているのではないのでしょうか。壁面に目を向けると、鏡の上にはリースがかざられています。また、ベッド側の壁にはハンガーが取り付けられており、そこに洋服が数枚と帽子などがかけられています。(*シート⑪) これがその様子です。入居者は、ほとんど毎日のように外出するといった忙しい生活を送っていて、こうした活動的な生活が、このような壁面利用状況にも表れているのでしょうか。
11	T7	次逢う住まい方いきます。(*シート⑫) この住まいは、77歳女性の住まいです。先ず玄関に入るとすぐに茶ダンスが置かれています。一番最初に紹介した方と同じくベッドを窓際に平行に置くことで、就寝と日中の行為ゾーンとを完全に分離させています。食器棚や整理ダンス、書棚、テレビ等様々な家具を壁面に沿って配置されており、さらに、座卓まで、壁面に寄せています。これは、中央部分で書道を行うために、家具類をすべて中央から排除しています。この方の生き甲斐を、が書道であるといったことから、書道を行うスペースに重きを置いた住まい方であるといえます。(*シート⑬、⑭、⑮) これが、この方の作品です。あとで、感想を書いてもらうのでよく見ておいてください。
12	T8	また逢う人です。(*シート⑯) この住まいは、右目がほとんど見えないという女性の住まいです。これまで仕事一筋でやってきたため、仕事ができなくなったときには生きる気力がなくなってしまし、落ち込んでしまったそうです。そうしたら、宗教と出会って心から救われたと語っていました。一人で生きてきたこともあって非常にしっかりとした考えを持つ、負けず嫌いな人です。玄関に入るとすぐに木製のついたてが置かれており、プライバシーの確保がなされています。ここには、入居者の一人で暮らしていくといった強い信念も表れているように思われます。台所にはマットが敷かれており、それによって、ゾーンの何らかの秩序付けがなされているといえます。また、居室内の大きなタンスは上を扉で支えてあり、地震対策なども行われています。この方の生き甲斐とされている、宗教が表れている部分は、ベッド横の棚の上であり、ここには本や扇子、花やみかんなど様々な宗教関連の小物類が飾られています。(*シート⑰) これがその様子です。
13	T9	(*シート⑱) じゃあ、今度は男性の例です。この住まいは、78歳男性の住まいです。ボーリングやサイクリングを趣味としており、毎日自転車を外へ出掛けていくといった活動的で話好きな明るい人です。居室と玄関の間には、奥さんが生きていた頃に、2人で旅行した先で購入したというれんが付けられています。奥さん亡くなった後、そうす。ベッド側の壁面を見ると、壁が見えないほどに奥さんや家族、孫との写真やバズルなどが合わせて20枚点飾られています。(*シート⑲) これがその様子です。部屋に写真を飾ることで、いつも家族と一緒にいるような気分になれるからという理由でこんなに多くの写真やバズルを飾っているそうです。(*シート⑳) これかそうです。(*シート㉑) ベッド横の棚の上には、ボーリングの大会で優勝した際にもらったというトロフィーや孫の進学旅行のおみやげなどが置かれており、いわば思いでの空間となっているといえ、主としてベッド側には就寝および思いのゾーンとして活用されているといった様子が見られます。また、ベッドと反対側の壁面にはタンスやコタツが置かれており主に生活行為ゾーンとなっている様子が見えます。至る所に家族との思い出が具体的に表れており、この方の精神面での支えである家族が住まい方からも充分見れてるといえます。
15	T10	(*シート㉒) また、男性の例です。この住まいは、89歳の男性の住まいです。この方は、元大学教授といったこともあり、その居室内にはソファなどしっかりとした家具類が置かれています。玄関を入るとすぐに椅子が2つ置かれており、ここには身体機能の低下の様子を表れていると言えます。また、入居者の以前の仕事から本棚が玄関に2つ、居室に1つ置かれていることから非常に多くの書物を所有していることが分かります。窓際には、書棚が配置されており、最近ここで自分の先祖の研究をされているそうです。また、ベッド側の壁面には弟さんの撮られたという写真や外国の風景画、大学当時の思い出の品々およびポストカード類が飾られています。(*シート㉓) これがその様子です。壁面には、壁面には写真や昔の思い出の品などが飾られていたり、書棚には先祖を調べるための書物が

49	T 2 4	そうだね、これだと真ん中に家具置きたいという人もし、いるかもしれないね、それだと横から見た図ってちょっと書きにくいね、真ん中に置いたやつはじゃあいいです、書かなくて、上から見た図で、もし、書けるんだったら横に、この真ん中のは横から見るとこうですって、書いてください。
50	T 2 5	じゃあ、もし、机って、80センチどのくらいかなって、分からない人、メジャーもってきたので、書いてください。行きます。このくらいって、何かわからないときあったら、使ってください。また、1周しますね。
51	T 2 6	まず、だいたいどこに置きたいかフリーハンドで、バーって書いてから、消すですとすぐできると思うよ、だいたいここに何置きたいって、丸もいから書いておいて、そうしてあら後でちゃんと書けば。
52	T 2 7	家具とかべつに全部新しいもの考えなくても、例えば家にある家具をそのまま、一人暮らしするとき、これを持っていこうという物があったらそれを置いて理由を、書いてください。私も、家にあった・・・、友達とかベッドとかわざわざ運んだ人とかいます、あと、タンスとかべつになくても、押し入れに収納ケースとか、今いいの売っているから、そういうのとかで、期望を広くするっていう手もありますねえ。で、掃除機がなくなっても、こういう人がいますよ。コタツ机を全部掃除機兼食、食事するとき、食卓兼いろいろ、そういう人も、います、そういうこともいろいろ考えてみて。
56	T 2 8	あの、キッチンのほうに壁かかなかったんですけど、もしキッチンのほうに、今～君ごめんね、あの、キッチンによく炊飯器置いたりレンジ置いたりする棚とかありますよね、そういうのに置きたいっていう人は、壁ないんですけども、それも、横から見た図書いてください。まあ、冷蔵庫ぐらいだったら書かなくいいよ。書きたかったら、まあ、書いたほうがいいけど。
57	T 2 9	自分が住むと仮定して書いてね。 あと、10分くらい、無理だね、結構時間かかっちゃうもんね。あと、もし、夏はこういう部屋、冬はこういう部屋って、季節ごとかえる人とかもいるよね、狭い、そういうも書いてみていいですよ。夏、夏だからこういう住み方とか、冬だから、おこたつをつけて暖房があるとか、そういうのも仮定して書いてみるのも面白いかも。
60	T 3 0	この授業べつに、一人暮らしを進めているわけじゃないからね、もし、住むとしたら、どういう、本当は自分の部屋でもいいんだけど、今住んでいるね、まあ、こうした方がいいと思っただけ。家から・・・すると、お金がうくってということもあるし。
61	T 3 1	今日出してくれる人はちゃんと名前書いて出してください。
62	T 3 2	あと、文章でも書いてください。ベッドを置かない理由とか。
63	T 3 3	あ、真剣にやりましょう。あと、5分、あ、もう5分ないじゃんねえ。もうすぐチャイム鳴ります。あ、2分。
65	T 3 4	(*チャイムが鳴る。)じゃあ、終わりにします。できた人は、できたというか、自分でいいと思った人は、提出してってください。どこまで書いていうのはないので、で、できなかったというかもうちょっとやりたい人は、さっきも言ったんですが、17日本曜日3コマ目の小杉先生の授業のときに提出してください。ありがとうございました。今日と・・・、2コマありがとうございました。 (*終わりの挨拶をする。)

第 3 節 授業分析と授業の評価

1. 授業分析の方法と視点

学習内容、学習方法については、授業者の立場と学習者の立場から分析及び評価を行う。具体的に授業者の立場からは、授業者・学習者の発言や学習者の活動を記録した授業記録から、分析及び評価を行う。学習者の立場からは、学習内容について、興味・関心が持てたか、楽しかったか（楽しさの評価）、ためになったか（有益性の評価）の3つの質問をした事後調査と、授業①、授業②時に採取した授業の感想及びワークシート1-1、1-2、3-1、3-2、3-3と事後調査で採取した授業全体を通しての感想から、分析及び評価を行う。

また、本章の第1節で挙げた仮説①、仮説②、仮説③の検証については、以下の方法で行う。

< 仮説①の検証 >

仮説① - 授業の導入として、学習者にとって近い将来である大学生の一人住まいを教材として用いることにより、学習者の住生活に対する興味・関心を高めることができる。

学習内容について、興味・関心が持てたか、楽しかったか（楽しさの評価）、ためになったか（有益性の評価）の3つの質問をした事後調査と、授業①時に採取した授業の感想及び事後調査で採取した授業全体を通しての感想と、ワークシート3-1、3-2、3-3を基に検証する。

< 仮説②の検証 >

仮説② - 自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の一人住まいを教材として用いることにより、空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくるのがわかる。（仮説②-1）また、大学生と高齢者の住まい方を比較することで、住まい手の年齢によっても住まい方が違ってくるのがわかる。（仮説②-2）さらに、自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の住まい方を学習することで、自分らしい住まい方について考え今後に生かそうとする。（仮説②-3）

授業②時と事後調査で採取した授業の感想を基に検証する。

< 仮説③の検証 >

仮説③ - 住まい方の実態を知ることで、高齢者の生活や、趣味などの理解が深まる。

授業②時と事後調査で採取した授業の感想を基に検証する。

<採取した感想及びワークシート、事後調査について>

- 授業①時に採取した授業の感想とは、小題材1. 終了時に書いてもらった感想である。
(本章章末に、授業①時で採取した授業の感想の一覧を掲載している。)
- 授業②時に採取した授業で感想とは、小題材2. 終了時に書いてもらった感想である。
(本章章末に、授業②時で採取した授業の感想の一覧を掲載している。)
- 事後調査は、小題材3. が終了(授業②終了)して1週間後の家庭一般の授業時に行ったものである。
(本章章末に、事後調査で採取した授業の感想の一覧を掲載している。)
- ワークシート1-1は、小題材1. 時に静岡大学生の一人住まいについて予想を書き込んでもらったものである。(本章第2節1. を参照)
- ワークシート1-2は、小題材1. 時に平面図Dに家具の配置作業をしてもらったものである。(本章第2節1. を参照)
- ワークシート3-1、3-2、3-3は、小題材3. 時に自分はどう住みたいか平面計画などをしてもらったものである。(本章第2節1. を参照)

2. 学習内容、学習方法の分析及び評価（授業者の立場から）

各授業について、目標が達成できたかどうか、そのための授業の方法は適切であったか、また、その学習内容自体が学習者に適したものであったかを主な視点として、授業記録を基に授業者の立場から分析及び評価していく。

【授業①207HR】

本時の目標

近い将来である大学生の一人住まいの様子を知ること、住まいに興味・関心を持つ。

本時では、ワークシートを2枚、資料を1枚配付したのだが、そこに№を付けておかなかったため、数分ではあるが余計な時間を費やしてしまった。予め、№を付けておくべきであった。

事前調査を行った後、静岡大学生の一人住まいの家賃、居室の広さ、どのような家具・電化製品が置いてあるか、下宿を決める際重視したことは何か、の5点について予想してもらった。居室の広さについて、授業者が「居室」についての説明をしていなかったため、バス、トイレ、キッチン、玄関も広さとして考えてしまった生徒も中にはいるだろうと思う。予想する時間が5分ほどしかとれなかったため、発表では特に家具・電化製品の予想があまり出なかった。考える時間をもう少しとる必要があったように思う。しかし、時間は十分にとれなかったが、生徒は真剣に予想し（中には近くの人と相談している生徒もいたが）授業に主体的に関わっていたので、導入としては良かったのではないと思う。実態の報告では、家賃や居室の広さは平均を、家具・電化製品は過半数の学生が置いてあるものを、下宿を決める際重視したことは上位5位までを板書で示した。特に、家具・電化製品の実態については、板書に時間がかかり、単調になってしまっていたので、あらかじめ画用紙に書いておき、黒板に貼っていくという方法の方がよいと思う。本時では、時間の関係で家具の配置作業にも十分な時間がとれなかった。（黒板でやってくれた生徒が終わるまでの時間＝4分間で家具の配置作業をしてもらった）ここでは、同じ間取りでも、家具の配置の仕方は人それぞれであり、また部屋の雰囲気が変わってくることを生徒に実感してもらいたかったので、1人だけ黒板でやってもらい、黒板のものと自分のものとを比較させた。時間があれば、3人くらいに黒板でやってもらい、その3人のものを比較検討した方がクラス全体の理解を得る効果が上がると思われる。

この後、静岡大学生の一人住まいの様子をVTRで、視聴してもらったのだが、家具の配置作業をまだ終えていない何人かの生徒が作業を続けており、VTRに集中できていなかった。家具の配置作業ができていない生徒にも、作業を中断させVTRを視聴するよう注意する必要があった。授業者がVTRのインタビューと同時に説明を加えていたため、生徒はどちらも聞き取れなかったようである。また、このVTRには男子学生の部屋の様子がなかったためか、VTRの終わり頃には、特に男子生徒があきいているようであった。VTRで取り上げた大学生の住まいについては、家具等を記入した平面図を配付しており、視聴に合わせてみてもらっていた。

1時限にしては内容が多すぎたことで、それぞれの学習内容に十分な時間がとれなかったことが残念である。

本時は、生徒にとって近い将来である大学生の一人住まいの様子を知ること、住まいに興味・関心を持ってもらうことを目標としたが、VTRや平面図には、女子学生の住まいについてだけであったので、男子生徒に興味・関心を持たせるには不十分であったように思う。男子学生の住まいも取り上げるべきであった。

【授業①203HR】

207HRと同じ学習指導案で、同日に授業を行ったため、特に207HRと違いがあったことについて述べることにする。

- ・203HRでは、授業を始める前に授業のねらいを生徒に伝えた。
- ・「居室」についての説明がされていた。

- ・家具の配置作業には、207HRの倍の作業時間（8分）を確保した。
- ・VTR視聴時、VTRの音と授業者の説明が重ならないようにした。

【授業②203HR】

本時の目標

- ・前時の大学生の一人住まいと空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間として、ケアハウスで生活している高齢者の一人住まい（特に、自分の生きがいや趣味などが住まいに表れている住まい）の様子を何例か見ることで、ほぼ同一の平面図の住まいでも、住まい手によって、住まい方が違ってくことを知る。また、高齢者の生活や趣味などを理解する。
- ・近い将来である大学生の一人住まいの住まい方について計画することで、住まいに主体的に関わろうとする。

ケアハウスについての説明は、資料を用意することにより、短時間で説明できた。

大学生の一人住まいとほぼ広さが同じであるアドナイ館というケアハウスで生活している高齢者の一人住まいの様子をOHPで見てもらった。大多数の生徒は熱心に見ていたが、時間の関係で高齢者1人ひとりの住まい方の様子を写したOHPをじっくりと見るだけの時間がとれなかった。しかし、生きがいや趣味などが住まい方によく表れている高齢者計7名のそれぞれの住まい方を紹介することで、住まい方は、その人の個性や生き方によって違ってくるということのはつかめたのではないかと思う。時間があれば、住まいに主体的にかかわっておらず、雑然とした住まい方をしている高齢者の住まい方も紹介し、比較させることで、生徒が自分らしい住まい方についてもっと深く考えていくことができたのではないかと思う。

主体的に住まいと関わっていく態度を育てるため、自分らしい住まい方を授業①で扱った大学生の一人住まいの平面図3つから生徒一人ひとりに1つ選んでもらい、そこでどう住まうかを平面計画し、選んだ理由、どのように住みたいか、住まいへの要求などを書いてもらった。机間指導している時、「全然考えられないよう。大学生になったら一人暮らししたいけどこんな調子じゃ困るね。」という生徒もいた。自分のこととして考えているということがうかがえる。自分のことについての作業であったため、大多数の生徒も、自分なりに、自分自身がどう住まうかについて真剣に考えていたように思う。

時間があれば、不動産屋が出している物件の資料から選ばせるところから、取り組むと学習がより深まったと思われる。

授業者が資料の誤り（選択してもらった住まい3つのうち2つに関して平面図とその説明が入れかわっていた）に気付くのが遅かったため、訂正に時間をとられ、20分くらいしか平面計画の時間がとれなかった。結局、授業時間内に作業を終えた生徒はほとんどいなかったため、宿題とし、1週間後の家庭一般の授業時に提出してもらうことにした。この宿題は学校での評価（内申）にはまったくかかわらないため、生徒の興味・関心が作品に影響してくるだろうと思われる。

訂正に時間がとられてしまったが、訂正の時間を入れても十分な時間があつたとはいえない。これだけの内容を2時限で行うことには限界があつたように思う。

【授業②207HR】

203HRと同じ学習指導案で授業を行ったため、特に203HRと違いがあつたことについて述べることにする。

- ・前述した資料の訂正については、早く済ませたが、授業時間内に自分はどのように住みたいかについての作業を終えた生徒はほとんどいなかったため、203HRと同様に宿題とし、1週間後の家庭一般の授業時に提出してもらうことにした。

3. 学習内容、学習方法の分析及び評価（学習者の立場から）

学習者の立場から、学習内容、学習方法が適切であったかどうか、学習内容について、興味・関心が持てたか、楽しかったか（楽しさの評価）、ためになったか（有益性の評価）の3つの質問をした事後調査と、授業①、授業②で採取した感想及びワークシート、事後調査で採取した授業全体を通しての感想を基に分析及び評価をしていく。

(1) 事後調査からの分析

授業②終了後から1週間後の家庭一般の授業時に事後調査を行った。

<調査方法>

生徒にわかるように、授業時間2時限において行われた学習内容と方法を合わせた書き方で、授業を行った順番に7項目記してある。それに対し興味・関心が持てたか、楽しかったか（楽しさの評価）、ためになったか（有益性の評価）の3つの質問をした。生徒が主体的、意欲的に学び、授業後も継続した広がりのある学習に進展させるためには、生徒が興味・関心を持ち、楽しく、ためになると思えるような学習が必要ではないかと考えたからである。

図2-3-3-1 授業評価についての調査内容

① 授業内容	興味・関心	楽しさ	ため
1)	大学生の1人住まいの家賃などを予想する	大学生の1人住まいの家賃などの実態を知る	大学生の1人住まいの様子をVTRで見る
2)	大学生の1人住まいの家賃などの実態を知る	大学生の1人住まいの部屋の平面図を見る	家具などの配置作業をする
3)	大学生の1人住まいの部屋の平面図を見る	家具などの配置作業をする	大学生の1人住まいの様子をVTRで見る
4)	家具などの配置作業をする	大学生の1人住まいの様子をVTRで見る	高齢者の1人住まいの様子をOHPで見る
5)	大学生の1人住まいの様子をVTRで見る	高齢者の1人住まいの様子をOHPで見る	自分の住まい方を計画する
6)	大学生の1人住まいの様子をVTRで見る	自分の住まい方を計画する	
7)	自分の住まい方を計画する		

図2-3-3-1 授業評価についての調査内容

<結果及び考察>

1) 授業についての興味・関心

授業についての興味・関心は、表2-3-3-1と図2-3-3-2に示すとおりである。過半数の生徒が興味・関心を持った学習は、「大学生の一人住まいの家賃などを予想する」(41名/50.6%)、「大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る」(58名/71.6%)、「家具などの配置をする」(41名/50.6%)、「自分の住まい方を計画する」(52名/64.2%)であった。また、過半数に近い生徒が興味・関心を持った学習は、「大学生の一人住まいの部屋の様子の平面図を見る」(39名/48.1%)、「大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴する」(39名/48.1%)であった。特に「大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る」や「大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴する」に高い関心が示され、興味・関心が持てなかった生徒はそれぞれ3名(3.7%)というわずかな数であった。

「高齢者の一人住まいの様子をOHPで見る」に興味・関心を持った生徒はわずか22名(27.2%)であった。やはり、生徒は自分にとって身近な将来に興味・関心を持つという傾向が明らかである。

しかし、事前調査で「高齢期の身体的・生理的特性と住居への配慮」について興味があるか質問した結果「大変興味がある」と答えた生徒は9名(11.1%)であったことを考慮すると、わずかではあるが興味を持った生徒が増えたことがわかる。また、「興味・関心を持てなかった」とする生徒は8名(11.1%)であったので、全く興味・関心を持てなかった生徒はわずかであったといえる。

表2-3-3-1 興味・関心が持てたか (人)

	A	B	C	無回答
1. 予想	41	32	3	5
2. 実態	58	17	1	5
3. 平面図	39	34	3	5
4. 家具配置	41	32	3	5
5. 大学生の居室	39	29	8	5
6. 高齢者の居室	22	45	9	5
7. 自分の住まいの計画	52	21	3	5

A・興味・関心を持った
B・どちらともいえない
C・興味・関心を持てなかった

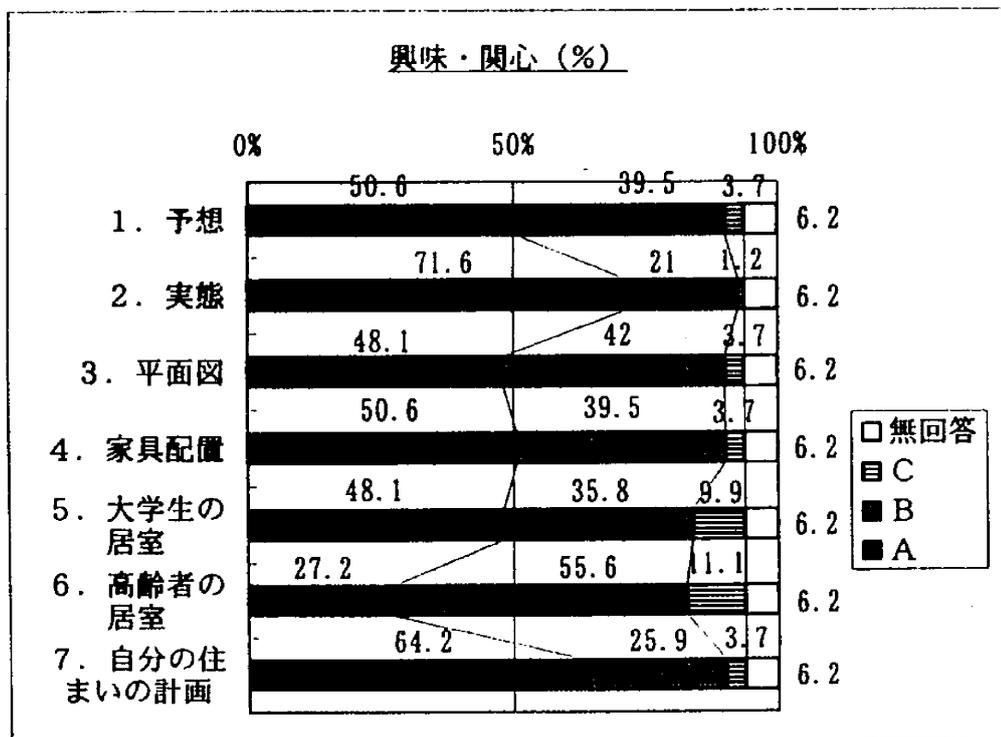


図2-3-3-2 興味・関心が持てたか (%)

2) 授業に対する楽しさの評価

授業に対する楽しさの評価は、表2-3-3-2と図2-3-3-3に示すとおりである。過半数の生徒が楽しかったと答えた学習は、「家具などの配置をする」(44名/54.3%)と「自分の住まい方を計画する」(42名/51.9%)であった。また、また、過半数に近い生徒が楽しかったと答えた学習は「大学生の一人住まいの部屋の様子の平面図を見る」(37名/45.7%)であった。作業をすることに対して特に楽しいとする生徒が多いことが明らかである。

「高齢者の一人住まいの様子をOHPで見る」は楽しさの評価も低く、楽しかったと答えた生徒はわずか10名(12.3%)であった。しかし、楽しくなかったとする生徒もわずか10名(12.3%)であったので、全く楽しくなかったという生徒もわずかであるといえる。

表2-3-3-2 楽しかったか(楽しさの評価) (人)

	A	B	C	無回答
1. 予想	16	55	5	5
2. 実態	31	41	4	5
3. 平面図	37	35	4	5
4. 家具配置	44	24	8	5
5. 大学生の居室	27	40	9	5
6. 高齢者の居室	10	56	10	5
7. 自分の住まいの計画	42	29	5	5

A・楽しかった
B・どちらともいえない
C・楽しくなかった

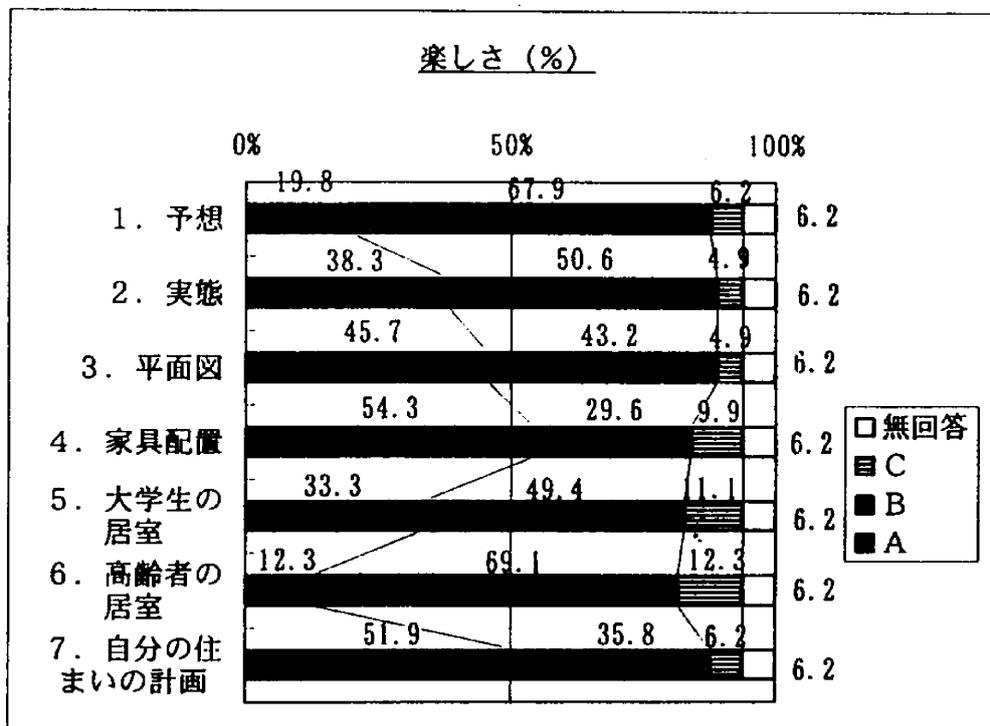


図2-3-3-3 楽しかったか(楽しさの評価) (%)

3) 授業の有益性の評価

授業の有益性の評価についての結果は、表2-3-3-3と図2-3-3-4に示すとおりである。過半数の生徒がためになったと答えた学習は、「大学生の一人住まいの家賃などを予想する」(48名/59.3%)、「大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る」(66名/81.5%)、「大学生の一人住まいの部屋の様子の平面図を見る」(45名/55.6%)、「大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴する」(41名/50.6%)、「自分の住まい方を計画する」(50名/61.7%)であった。また、過半数に近い生徒がためになったと答えた学習は「家具などの配置をする」(37名/45.7%)であった。7項目のうち「高齢者の一人住まいの様子をOHPで見る」だけ、32名(39.5%)とやや少なかったが、興味・関心や楽しさの評価と比べるとためになったと答えた生徒は多いといえる。また、ためにならなかったと答えた生徒は、7名(8.6%)であったので、全くためにならなかったという生徒もわずかであるといえる。

表2-3-3-3 ためになったか(有益性の評価) (人)

	A	B	C	無回答	
1. 予想	48	21	7	5	A・ためになった
2. 実態	66	10	0	5	
3. 平面図	45	29	2	5	B・どちらともいえない
4. 家具配置	37	34	5	5	
5. 大学生の居室	41	28	7	5	C・ためにならなかった
6. 高齢者の居室	32	37	7	5	
7. 自分の住まいの計画	50	26	5	5	

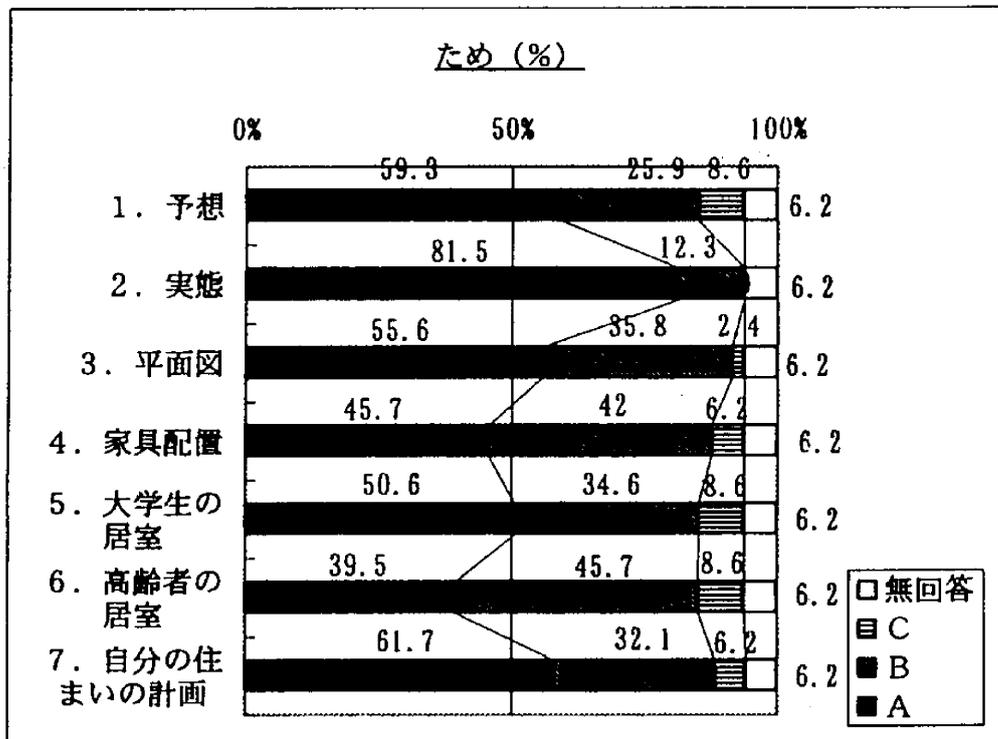


図2-3-3-4 ためになったか(有益性の評価) (%)

(2) 授業の感想及びワークシートからの分析

ここでは、事後調査で設けた7項目の学習内容、学習方法について、1項目ずつを(ただし、項目1)と項目2)は一緒に見ていく)、授業①、授業②で採取した感想及びワークシート、事後調査で採取した授業全体を通しての感想を基に分析及び評価をしていく。

〔授業① 小題材 大学生の一人住まいの様子〕

1) 大学生の一人住まいの家賃などを予想する。2) 大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る。

生徒が予想した家賃は、表2-3-3-1と図2-3-3-1に、居室の広さは、表2-3-3-2と図2-3-3-2に、置いてある家具は、表2-3-3-3と図2-3-3-3に、置いてある電化製品は、表2-3-3-4と図2-3-3-4に、下宿を決める際重視したことは、表2-3-3-5と図2-3-3-5に示すとおりである。

表2-3-3-1 家賃の予想 (人)

3万未満	1
3万以上4万未満	6
4万以上4.5万未満	10
4.5万以上5万未満	8
5万以上5.5万未満	26
5.5万以上6万未満	5
6万以上6.5万未満	10
6.5万以上	15

表2-3-3-2 居室の広さの予想 (人)

4.5畳くらい	1
6畳くらい	28
8畳くらい	29
10畳くらい	16
12畳くらい	3
14畳くらい	2
15畳くらい	1
無回答	1

表2-3-3-4 どのような電化製品があるかの予想

	あり	ない	合計
エアコン	46	35	81
ストーブ	3	78	81
コタツ	13	68	81
電気カーペット	80	1	81
扇風機	12	69	81
ステレオ・ラジカセ	48	33	81
テレビ	73	8	81
掃除機	65	16	81
洗濯機	27	54	81
乾燥機	0	81	81
ビデオ	38	43	81
電子レンジ	36	45	81
オーブン	5	76	81
冷蔵庫	59	22	81
ポット	5	76	81
パソコン・ゲーム	8	73	81
照明器具	8	73	81
電話	35	46	81
炊飯器	22	59	81
その他	10	71	81
無記入	1	80	81

表2-3-3-3 どのような家具があるかの予想 (人)

	ある	ない	合計
ベッド	57	24	81
鏡台またはドレッサー	13	68	81
コタツ・座卓	14	67	81
テーブル	33	48	81
洋服ダンス	57	24	81
整理ダンス	41	40	81
本棚	33	48	81
飾り棚	14	67	81
食器棚	9	72	81
ダイニングテーブル	0	81	81
勉強机	51	30	81
洋服掛け	4	77	81
座椅子	2	79	81
ソファ	14	67	81
その他	3	78	81
無記入	3	78	81

表 2 - 3 - 3 - 5 下宿を決める際に重視したことの予想 (人)

	あり	なし	合計
家賃	56	25	81
居室の広さ	28	53	81
様式	1	80	81
新しさ	4	77	81
キッチン	2	79	81
トイレ・浴室	7	74	81
建物の外見	2	79	81
内装	0	81	81
環境	36	45	81
何階か	0	81	81
収納	0	81	81
日当たり	14	67	81
風通し	2	79	81
交通の便	38	43	81
大学からの距離	31	50	81
衛生状態	6	75	81
駐車場	1	80	81
その他	7	74	81
無記入	2	79	81

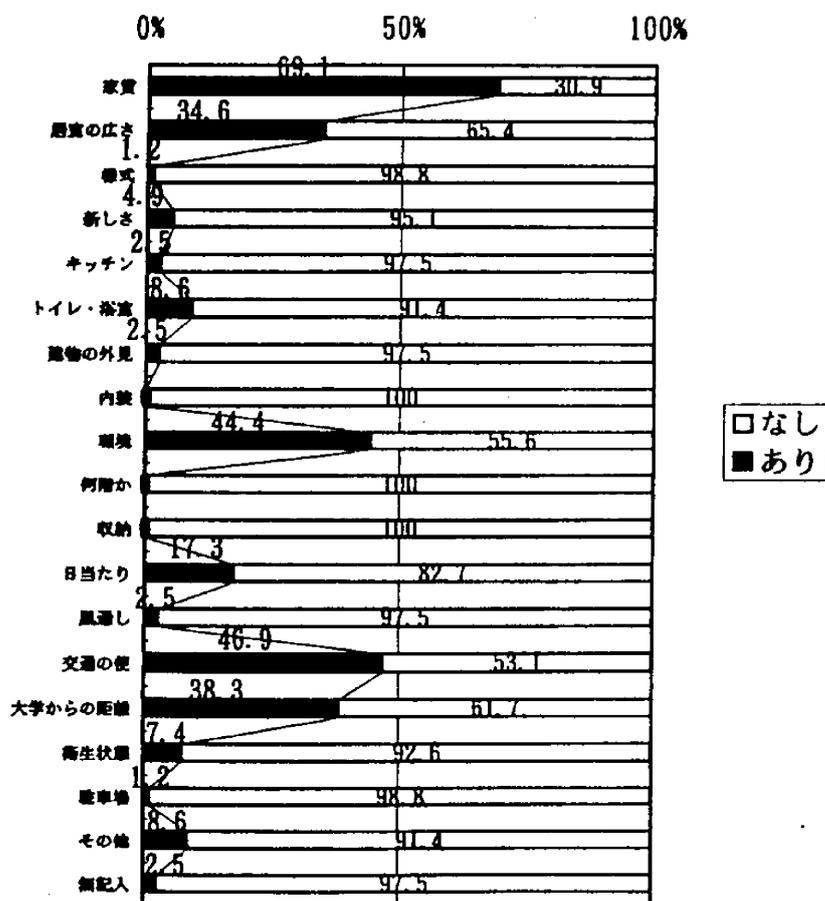


図 2 - 3 - 3 - 5 下宿を決める際に重視したことの予想 (%)

大学生の一人住まいの家賃などを予想し、実態を知ることについて感想を書いている生徒は、81人中（欠席者及び未提出者を除く、以下同様）47人いた。（表2-3-3-6、表2-3-3-7）約半数の生徒が授業①における感想の中で触れているということは生徒にとって印象が強いものであったといえる。

47人の感想をみると、「実態を知ることができてよかった・ためになった・参考になった・参考にしたい」や「実態がわかりやすかった」、「板書の仕方がわかりやすかった」などのようにプラス評価をしている生徒は21人いた。「予想より、家賃が高い・低い」や「予想より狭い」、「予想どおりだった」、「こんなに電化製品があるなんて思わなかった」などのように、自分自身の予想と実態を比較したことについて記述している生徒は24人いた。マイナス評価をしている生徒は、1人であったが、その生徒は、すでに自分の姉が下宿をしているため、ある程度実態を把握していたため、「そんなにためにはならなかった」と記述している。

以上のように、約半数近い生徒がプラス評価をしており、マイナス評価をしている者はわずか1人であった。また、マイナス評価をしている生徒は、すでに実態をある程度知っていたことが原因であるので、大学生の一人住まいの家賃などを予想し、実態を知ることについては、生徒の興味・関心を引き出す手立てとなり、授業の導入としては適切といえるのではないかと思われる。

3) 大学生の一人住まいの部屋の様子の平面図を見る。

大学生の一人住まいの部屋の様子の平面図について感想を書いている生徒は、80人中わずか4人であった。（表2-3-3-6、表2-3-3-7）これは、平面図を見る時間を十分にとれなかったためだと思われる。

4人の感想をみると、すべての生徒がプラス評価をしている。4人のうち2人が実際の部屋を撮影したVTRと平面図を見比べることに對して、「わかりやすかった」と評価している。

4) 家具などの配置をする。

事後調査で採取した感想では「4) 家具などの配置をする。」と「7) 自分の住まい方を計画する。」の記述内容の区別がつかないので、ここでは、授業①時に採取した感想とワークシート1-2を基に分析及び評価することにする。

家具の配置作業について感想を書いている生徒は81人中わずか3人であった。（表2-3-3-6、表2-3-3-7）これは、作業をする時間が十分にとれなかったためだと思われる。

生徒の感想をみると、3人のうち2人が「思っていたより難しかった」と記述していた。残りの1人は、「部屋の家具などの配置の説明にマグネットを使うなど、わかりやすくしてくれた」というように、黒板で1人やってもらい、自分のものと比較させたことについてプラス評価をしている。

生徒が提出したワークシート1-2を見ると、時間は十分にとれなかったが、大多数の生徒が家具を配置し終えていた。ただし、時間がとれなかったためか、自分の独自の生活行為を考えず、参考として載せた家具をそのまま配置するだけという生徒が多かった。

5) 大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴する。

大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴したことについて感想を書いている生徒は、81人中37人いた。（表2-3-3-6、表2-3-3-7）約半数近くの生徒が授業

①においての感想の中で触れているということは生徒にとって印象が強いものであったといえる。

37人の感想をみると、「平面図を見ただけでは、いまいち雰囲気とかよくわからなかったけど、ビデオをみてよくわかった」や、「大学生の一人住まいのイメージがふくらんだ・想像できた」、「いろいろな住まいをみれておもしろかった・楽しかった・参考になった」などのように、プラス評価をしている生徒は、17人いた。「上手に部屋を使っている」や「工夫している」、「思ったよりごちゃごちゃしている」、「きれいですごい」などのように、大学生の一人住まいの様子で感じたことをそのまま書いている生徒は、16人いた。マイナス評価をしている生徒は、5人おり、その中の3人が「おもしろくなかった」、「つまらなかった」、「中をみせているだけという気がした」と記述している。残りの2人は、「男子学生の部屋も見なかった」と記述している。

VTRは、筆者一人で短期間に作成したため、詰めが甘かったと反省している。しかし、約半数近くの生徒がVTRを視聴したことについての感想を書いており、その中で、「平面図を見ただけでは、いまいち雰囲気とかよくわからなかったけど、ビデオをみてよくわかった」や、「大学生の一人住まいのイメージがふくらんだ・想像できた」、「いろいろな住まいをみれておもしろかった・楽しかった・参考になった」などのプラス評価をしている生徒が、半数近くいたのでVTRを教材として用いたことは効果があったのではないかと思われる。

〔授業②小題材 高齢者の一人住まいの様子〕

6) 高齢者の一人住まいの様子をOHPで見る。

仮説②の検証で高齢者の一人住まいの様子を教材としたことについて分析するため、ここでは、高齢者の一人住まいの様子を知るためにOHPを使用したことについてのみ分析及び評価することにする。

OHPを使用したことについて感想を書いている生徒は、76人中6人(表2-3-3-6、表2-3-3-7)で、「それぞれの部屋の様子がわかりやすかった・はっきりわかった」や「様子がみれて興味深かった」というようにプラス評価をしている生徒は4人いた。残りの3人の生徒は、「もっとゆっくりみたかった」や「高齢者の住まいはよくわかったが、OHPシートをみて、説明を聞いていると、授業を受けている気がしない。研究発表という感じであった。」、「OHPの提示している時間が説明の長さによって、まちまちだったので、よくわからなかったものもあった。OHPの多用は単調になりがちなので、ビデオにすべき。」というように、どちらかといえばマイナス評価をしていた。

〔授業② 小題材 自分らしい住まい方〕

7) 自分の住まい方を計画する。

住まい方の計画について感想を書いている生徒は、76人中20人だけであった。(表2-3-3-6、表2-3-3-7)これは、住まい方の計画については、事後調査の時に授業①、②の全ての授業を通しての感想で書いてもらったためと思われる。

20人の感想をみると、「楽しかった・ためになった・参考になった・これから役に立つ」などのようにプラス評価をしている生徒は16人いた。マイナス評価をしている2人の生徒は、それぞれ「家具類の配置作業は役に立たないと思う。(自分の希望通りの家具が見つかるかわからない。資金面などの問題もある。）」、「家具の配置をかえることは今の部屋でもできる。それをするよりも、普段あまりかかわることのない台所のまわりの配置についてもっと深くやったほうが良いと思った。」と感想を書いている。マイナス評

働をしている2人の生徒は、本題材のねらいである「自分がどうすまうか」について考えるには及ばなかったと思われる。「大変だった・苦労した」というように記述した生徒は2人いた。そのうち1人は、「普段住居のことを考える機会が少なかったために、家具を配置する作業は苦労しました。」というように、この作業が、住居のことを考えるきっかけとなったようだ。住まい方の計画は、授業時間内に十分な時間がとれなかったため、宿題にし、1週間後に提出するようにした。この宿題は、学校での評価(内申)にまったく関係ないにもかかわらず、80人中70人が提出してくれた。身近な将来のことであるため、大多数の生徒がこの宿題に意欲的に取り組んだものと思われる。提出してくれたワークシート3-1、3-2、3-3をみると、表2-3-3-8に示すように、大多数の生徒が自分の生活を住空間の中に投影できているといえる。しかし、平面図としてはよく書けているのだが、住まいを選択した理由を書いている生徒は80人中25人で、住まい方について文章を書いている生徒は24人で、平面図に色まで入れた生徒は28人であった。やはり、授業時間内に作業時間を確保した方が、完成度は高いのではないかとと思われる。

その他

- A) 授業①時で採取した授業の感想で、同じ間取りでも家具の配置などにより部屋の感じが変わってくることについて記述した生徒は、81人中7人であった。(表2-3-3-6、表2-3-3-7)7人というように数は少ないが、同じような間取りである2例の大学生の一人住まいを比較したことや、その間取りに家具配置を行い生徒同士で比較させたことは効果があったと思われる。生徒同士の比較は、十分な時間がとれなかったため、黒板で家具配置をやらしてもらった1人の生徒と自分が行った家具配置とを比較するだけであった。2、3人の生徒に黒板でやらしてもらいそれを比較することを行えばより多くの生徒が「同じ間取りでも家具の配置などにより部屋の感じが変わってくる」ということに改めて気づいたのではないかとと思われる。
- B) 授業①時で採取した授業の感想で、学習内容を今後の住生活に生かそうとしている記述をしていた生徒は81人中6人であった。(表2-3-3-6、表2-3-3-7)授業①では、住生活に興味・関心を持つことを目標としたが、6人の生徒は、以下のように今の自分自身の部屋や、将来一人暮らしをした時の部屋について、自分なりに住まいとかかわっていかうとする意欲が見られる。自分なりに工夫をしていると筆者が考えた大学生の一人住まいを教材として選択した効果があったのではないかとと思われる。
- 以下は、授業①時で採取した授業の感想で、学習内容を今後の住生活に生かそうとしている記述をしていた生徒の感想である。

生徒番号

336 工夫しているところとか私が一人暮らしするときに利用したいです。自分がかつろげるようなすてきな部屋をつくりたいです。

336の生徒は事前調査で、自分の部屋・スペースにおいて、「あまり工夫していない」と答えている。ここでは、一人暮らしをする時に自分がかつろげるようなすてきな部屋をつくりたいと書いているが、今の自分の部屋・スペースにおいても今後工夫をしているのではないかとと思われる。

706 自分の部屋もいろいろ工夫してより暮らしやすいスペースをつくりたいと思っ

た。

- 713 部屋をかわいく飾っている人が多かったので、私もちょっとがんばろうと思った。

713の生徒は事前調査で、個人的生活空間の平面計画には「興味がない」と答えている。また、自分の部屋・スペースにおいて、「あまり工夫していない」と答え、模様替えもしたことがなく、したいと思ったこともなかったと答えている。713の生徒にとっては、居室に自分なりの工夫がしてある大学生の一人住まいの様子をみるこは、大変効果があったと思われる。

- 714 私も自分の部屋をもっと工夫して、自分らしい部屋にしてみたいと思った。

714の生徒は事前調査で、個人的生活空間の平面計画には「興味がない」と答えている。また、自分の部屋・スペースに個性（自分らしさ）があるかについて、「あまり自分らしくない」と答えている。714の生徒にとっては、居室に自分なりの工夫がしてある大学生の一人住まいの様子をみるこは、大変効果があったと思われる。

- 719 いつか一人暮らしをする時は、自分なりに工夫して、落ちついた所にしたいと思う。

- 738 同じ部屋でもその配置やインテリアによってずいぶんと変わるので、大学で一人暮らしをするときには、しっかりと考えてきれいな部屋にしたいと思った。

C) 事後調査で採取した授業の感想で、学習内容を今後の住生活に生かそうとしている記述をしていた生徒は75人中6人であった。事後調査では、授業①、授業②をとおしでの授業全体の感想を記述してもらったため、数は少ないが授業①時で採取した授業の感想で、学習内容を今後の住生活に生かそうとしている記述をしていた生徒以外に5人の生徒が以下のように学習した内容を今後の住生活に生かそうとしている。

生徒番号

- 319 今までぼんやりと一人住まいということを考えていたけど、急に身近な問題になったような気がします。もっと深く考えていきたいと思いました。

319の生徒は事前調査で、自分の専用の部屋があるにもかかわらず、主に親に掃除してもらっていると答えている。また、自分の部屋において、「あまり工夫していない」と答えている。将来一人住まいをするにあたって、今の自分の部屋の管理においても関心が持てるようになるのではないかと期待する。

- 336 自分の部屋の配置を考えるのはとても興味があるのでこれからも考えてみたい

自分の部屋の配置を考えるのはとても興味があると書いているが、336の生徒は事前調査で、自分の部屋・スペースの模様替えはしているが、工夫については「あまり工夫していない」と答えている。これから自分の部屋の配置を考えていくことで、自分なりの工夫がなされてくるだろうと思われる。

- 337 住まいは、自分が一番安らげておちつける空間にしたいと思った。自分の趣味

の空間でくらすたら、それだけで、すごく楽しくなると思う。今までは、住まいは、住めれば特に工夫がなくてもいい気がしていたけど、勉強していくうちに、やっぱり自分にあった住まいにすんで、快適に生活したいと思った。

337の生徒は事前調査で、個人的生活空間の平面計画には「興味がない」と答えている。また、住まいへの関心に対して「あまりない」と答え、自分の部屋・スペースにおいて、「あまり工夫していない」と答えている。337の生徒にとって、今回の授業は大変効果があったのではないかとと思われる。

713 この授業をうけて以来自分の部屋の配置、配色など気になって気になって・・・はやく一人暮らしをして、部屋をかわいくしてラブリーなマイ・ワールドをつくりたい。

716 自分が将来住む部屋はどんなかわからないけど授業でやったことをおもいだして住みやすい空間にしたい。

717 収納の仕方を自分なりに考えて、快適な部屋をつくりたいです。

717の生徒は事前調査で、住まいへの関心に対して「あまりない」と答え、自分の部屋・スペースにおいて、「あまり工夫していない」と答えている。717の生徒にとって、今回の授業は効果があったのではないかとと思われる。

4. 仮説の検証

(1) 仮説①の検証

仮説① - 授業の導入として、学習者にとって近い将来である大学生の一人住まいを教材として用いることにより、学習者の住生活に対する興味・関心を高めることができる。

授業①時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説①とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒は、81人中42人(51.8%)であった。(表2-3-4-1、表2-3-4-2)過半数以上の生徒が「近い将来である大学生の一人住まい」を教材として用いたことで、住生活に興味・関心を高めることができたということが明らかになった。また、本章第3節3.で学習者の立場から学習内容、学習方法を分析してみた結果、授業①での学習内容、学習方法である「大学生の一人住まいの家賃などを予想する」、「大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る」、「大学生の一人住まいの部屋の平面図をみる」、「家具などの配置作業をする」、「大学生の一人住まいの様子をVTRで視聴する」のすべてに対して、約半数以上の生徒が事後調査で「興味・関心を持てた」と答えている。特に、「大学生の一人住まいの家賃などの実態を知る」には7割の生徒が「興味・関心を持てた」と答えている。学習内容、学習方法について書かれた感想の分析からも、マイナス評価をしている生徒は少なく、プラス評価をしている生徒が約半数近くいた。事前調査では、自分の部屋・スペースにおいて「あまり工夫していない」、「あまり自分らしさがない」と答えていた生徒や、個人的生活空間の平面計画には「興味がない」と答えていた生徒が、授業①で採取した授業の感想をみると、「大学生の一人住まい」を教材として用いた学習内容を、今後の住生活に生かそうとしている記述がみられた。

以上のことから、「近い将来である大学生の一人住まい」を取り上げた教材は、生徒の住生活に対する興味・関心を高める効果があるといえる。

以下は、授業①時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説①とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒の感想の一部である。

- | | |
|-------------|---|
| 生徒番号
304 | 私も、大学に行ったら、一人暮らしをしたいと思っているので、こういう授業は、とても興味があっていいと思います。 |
| 307 | とっかかりのテーマが「大学生の実態」ということで、興味・関心がわいた |
| 327 | 一人暮らしをしたいと思っていたので今日は役に立ちました。今まではただ一人暮らしをしたいだけだったけど、今はどんな部屋でどんな家具をおいて、何を気にして部屋を選びたいかが、想像できました。 |
| 702 | 今までは、住まいのことについてほとんど関心がなかったけれど、今回の授業を通して、少し関心が高まったような気がする。自分が大学生になったら一人暮らしになるので、それまでに住まいに関する知識をつけておきたいと思う。 |
| 711 | 自分は将来一人暮らしをすると思うので勉強になった。これからはたまに広告とかも見ようと思う。実際に一人暮らしする前に気づいたのでよかった。 |

(2) 仮説②の検証

1) 仮説②-1の検証

仮説②-1

自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の一人住まいを教材として用いることにより、空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくることを示す。

授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説②-1とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒は、77人中33人(42.8%)であった。(表2-3-4-1、表2-3-4-2)約半数近い生徒が、「自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の一人住まい」を教材として用いたことにより、空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくることを記述していた。授業①時で採取した感想でも、「家具の配置や、収納の仕方で部屋の感じが変わってくる」というような記述をしている生徒は7人いたが、「住まい手の個性によって住まい方が違ってくる」というように、住まい手のそれぞれの生き方が住まい方に違いを与えるということまでは、触れられていなかった。大学生より、生活経験が豊かである高齢者の一人住まいを教材としたことで、「空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくる」ということがわかったのではないかとと思われる。

以下は、授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説②-1とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒の感想の一部である。

- | | |
|-------------|---|
| 生徒番号
310 | 一人一人の趣味や考え方によって、部屋の中の家具の配置などがずいぶん変わると思った。 |
| 317 | どの住まいにもその人の趣味や人柄とかがあふれていると思った。 |
| 322 | 自分のライフスタイル、何を重視するかによって、部屋の中が全然違って興味深かった。 |
| 323 | 同じ部屋のつくりでも人によって、家具の配置がことなるため、まったく印象が違うものだった。その人の人柄があらわれていたと思う。 |
| 325 | どの人も独特のその人らしい部屋になっていた。(中略)好きなものを飾って、その人の中心にしてあって、住みやすそうだった。 |
| 716 | 個人個人がそれぞれいろいろな考えで部屋を配置してあると思う。 |
| 733 | 個人個人によって多種多様で自分が住みやすいように、自分で工夫してあるところとかがあって、いいと思いました。同じような部屋なのに、全然、住み方が違うのには、驚きました。 |

2) 仮説②-2の検証

仮説②-2

大学生と高齢者の住まい方を比較することで、住まい手の年齢によっても住まい方が違ってくるのがわかる。

授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説②-2とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒は、77人中わずか18人(23.3%)であった。(表2-3-4-1、表2-3-4-2)しかし、本時では、高齢者の一人住まいとしてケアハウスの一人居室を教材として用いたため、トイレが広いことや、段差がないというようなハード面での違いに目を向けた生徒が多く、授業②時で採取した授業の感想では、35人、事後調査で採取した感想では、7人の生徒が前述したハード面について、感想を述べていた。「空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の年齢によって住まい方が違ってくるのがわかる」ことを仮説②-2としたが、高齢者の身体的な衰えを補うようなつくりの違いに注目する生徒が多かった。

以下は、授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説②-2とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒の感想の一部である。

- | | |
|-------------|--|
| 生徒番号
327 | 大学生に比べ自分の生きがいや趣味を主とした部屋づくりになっていると思いました。 |
| 713 | 大学生の部屋よりも、老人の部屋の方が自分の趣味のスペースがちゃんと確保されていたと思う。 |
| 717 | 前回見た大学生よりも、やはり高齢者という感じの部屋だった。大学生より高齢者の方が趣味を生かした部屋をつくっていた。(中略)大学生と違い部屋にいる時間が長いので、各人かなり個性がでていた。 |
| 725 | 自分で作ったもの等を、棚等にかざったりして、大学生の一人住まい以上に工夫がなされていたと思う。 |
| 731 | 高齢者の方は体が不自由な人が多いので部屋にいる時間が若い人達に比べて長いから自分の趣味ができるようにたくさんの物を置いたり、置きかたが工夫されていてよかったと思う。 |
| 735 | 大学生の一人暮らしと高齢者の一人暮らしの大きな違いは、家にいる時間の長さの違いと、人生の中で得てきたものの大きさの違いだろうと思った。大学生はまだ1つのものにうちこむことが少ないと思うけれど、高齢者の方々は、70年~80年で好きになったものにうちこむため、たなの量とか物の量にちがいがでてしまうと思った。 |

3) 仮説②-3

仮説②-3

自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の住まい方を学習することで、自分らしい住まい方について考え今後に生かそうとする。

授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説②-1どおりの記述がみられた生徒は、77人中わずか3人(3.8%)であった。(表2-3-4-1、表2-3-4-2)約半数近い生徒が、「自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の一人住まい」を教材として用いたことにより、空間的条件がほぼ同じである個人的生活空間でも、住まい手の個性によって住まい方が違ってくることについては記述していたが、自分自身も住まいに主体的に関わっていこうとする動機付けまでには至らなかった。自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の住まい方を学習することだけでは、自分らしい住まい方について考え今後に生かそうとする効果があまりみられなかった。

以下は、仮説②-3どおりの記述がみられた生徒の感想である。

生徒番号 305
同じ広さの間取りでも、ちょっとした工夫によって、さまざまな利用がされていて、自分にとっても、これからの生活の参考になりました。やはり、一番重視したいのは、自分にとってよりよい生活のスペースを作ることだと思いました。自分の興味のあるもので部屋をかざることによって、より安心のできる場とすることができるのだなと思いました。

322
自分のライフスタイル、何を重視するかによって、部屋の中がぜんぜん違って興味深かった。家具の配置やらなんやら一つとっても、いろんなことを考えてすべきだと思った。

702
老人たちは自分の家に、自分の生きがいとなるものや自分のもった障害を助けるものを配置してあって、工夫した家づくりがなされていると思った。僕の部屋には老人たちがしているような配慮が全くされていないので、自分の部屋にもこうした工夫をしたい。

(3) 仮説③の検証

仮説③-住まい方の実態を知ることで、高齢者の生活や、趣味などの理解が深まる。

授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説③とほぼ同じ趣旨の記述がみられた生徒は、77人中52人(67.5%)であった。(表2-3-4-1、表2-3-4-2)過半数以上の生徒が、高齢者の住まい方の実態を知ることで、高齢者の生活や、趣味などの理解が深まっているといえる。感想の内容をみると、高齢者に対してどちらかといえばプラス面の理解が深まったと思われる生徒が52人中31人(59.6%)おり、どちらかといえばマイナス面の理解が深まったと思われる生徒は、52人中6人(11.5%)だけであった。残りの15人の生徒は、プラスともマイナスともいえないが、高齢者に対する理解は深まったといえる生徒である。

事前調査では、「高齢者」に対してのイメージを自由記述してもらった結果、明らかにマイナスと思われるイメージを持っている生徒や、どちらかといえばマイナスと思われるイメージを持っている生徒が多く、プラスと思われるイメージを持っている生徒はわずか

4人のみであった。このような事前調査での結果を考慮すると、「自分自身の生きがいや趣味などが住まいに表れている高齢者の住まい方」を学習することで、高齢者のマイナス面ばかりでなく、プラス面にも気づいた生徒が多数いたといえる。

以下は、授業②時と事後調査で採取した授業の感想で、仮説③とほぼ同じ趣旨の記述がみられた一部の生徒の感想である。事前調査で自由記述をしてもらった「高齢者」に対してのイメージも合わせて示す。

事前調査において、高齢者に対してマイナスと思われるイメージを持っていた生徒
↓
授業後において、プラス面の理解が深まった生徒の感想

生徒番号

307

不自由。

↓

高齢者でも、自分なりの生活を送るために、いろんな工夫をしていることがわかった。

314

年金。動きが鈍い。

↓

自分たちの生きがいを生かすことができるような部屋づくりをしていたので、すごいと思った。

329

誰かの手を借りないと生活がしにくい人たち。高齢化。

↓

OHPでみたお部屋は、どれも生活感があり、生きがいをどの方も持って前向きに生きてるんだなあと思いました。

701

もう年をとって、体にガタがきていて、就職できない。

↓

高齢者の体の不自由さにも負けず、自分なりに趣味を見つけ、うちこむのは、すごいと思った。

704

子やまごに世話してもらおうなおじいさん、おばあさん。

↓

皆、部屋の使い方がうまく、ちゃんと整理してあった。さすがに何十年も生きてきていない（ママ）。

726

介護とか大変

↓

年配の人々のくらしている部屋を見ると、介護のイメージというより、一般の人々と同じく、趣味に重点がおかれているイメージがあった。高齢化により老人の期間が延びたためか、余生を十分に楽しめるようになっていったと思った。年をとったら老いるばかり、という先入観がはらわれて、年

配者になっても人生を楽しめることがわかったのは、この授業を受けてよかったことだと思う。

事前調査において、高齢者に対してプラスと思われるイメージを持っていた生徒
↓
授業後において、プラス面の理解が深まった生徒の感想

3 2 1

大先輩。

↓

自分のやりたい事を自分でしっかり把握して毎日の楽しみにしていることはすばらしい事だと感じた。
高齢者の一人暮らしについては、趣味をもっている老人は問題ないと思ったが、果して自分が高齢者になった時にこのように充実した毎日を通せるかという事が心配だった。今のうちに自分の好きな事・興味を持てる事をしっかりと持っておきたいと感じた。

7 3 0

経験豊富な人

↓

高齢者の部屋は、何か雑然としているようなイメージがあったが、ほとんどの人が、きれいにしているなと思った。それに、各部屋の家具の配置なども工夫されていた。それも、その人その人の趣味や生きがいにおいて違っていたのに、よく考えているなと感心した。

7 3 6

ダンディー。人生を楽しんでいる。

↓

老人は、趣味に生きる傾向がみられるが、そのための工夫に費やした努力は並ではない。

事前調査において、高齢者に対してマイナスイメージを持っていた生徒
↓
授業後において、マイナス面の理解が深まった生徒の感想

3 0 2

体に不自由なところがある。人の助けが必要。

↓

お年寄りには、私たちより、生きがい、趣味などを、とても重視していることが、部屋の様子からわかった。そういうことを重視したり、信仰心があつくなったりするのは、やはり、孤独感にかられることも多いからかな、とも思った。

3 2 7

年金をもらって暮らしている人（筆者は、どちらかと言えばマイナスイメージであると考えた。）
↓
老人の方の住居には、人形や花など、装飾品が多く一人で住む寂しさをまぎらわしているのではないかと思いました。大学生に比べ自分の生きがや趣味を主とした部屋づくりになっていると思いました。身体機能の衰えなど年をとるにつれて生活していくことじたいに問題が生じてくると、今までの生活形態を変えたりしなければならないので、やっぱり私は長生きしないようにそこそこでこの世を去りたいと思いました。

7 3 4

税金が増える。なりたくない。手間がかかる。
↓
僕たちよりは自由に使える時間があるので趣味のものがたくさんあったが僕たちより体が衰えているので若いうちにいろいろやっておきたいと思う

プラスともマイナスともいえないが、高齢者に対する理解が深まったといえる生徒の感想

8 0 9

高齢化社会の中での高齢者がどのように住んでどのようなことが必要なのか参考になりました。

8 3 9

大学生の部屋と、ケアハウスでは部屋のつくり自体から、飾ってあるものまでぜんぜん違っていた。

7 1 3

大学生の部屋よりも、老人の部屋のほうが自分の趣味のスペースがちゃんと確保されていたと思う。

7 1 9

部屋の様子はもう高齢なので趣味に没頭する人が多かった。また、家族の写真を飾る人もいて、思い出を重視したいのだなあと思った。

< 注 および 引用 文 献 >

- 1) 日本科学者会編 「住まいを見直す」 大月書店 1984 P4
- 2) 同上 PP96-97
- 3) 佐藤由紀 「「装いのある暮らし」の実現に向けて-単身高齢者を中心として-」 1996年度 卒業論文 PP125-175